2017 年度夏季短期研修報告書の発刊にあたって

国際教育センター長
森山　新

本報告書は、お茶の水女子大学の 2017 年度夏季短期研修派遣プログラムにより、マンチェスター大学（イギリス）、ニューサウスウェルズ大学（オーストラリア）、ウィーン工科大学（オーストリア）、ロンドン大学 SOAS（イギリス）、ボン大学（ドイツ）、ストラスブール大学（フランス）、梨花女子大学校（韓国）、ブルゴス大学（スペイン）の 8 大学で研修を受けた合計 35 名の学生の帰国報告をまとめたものです。派遣先は異なりますが、それぞれに慣れない生活様式や気候、異文化体験を新鮮に受けとめ、いっしょうけんめい勉強し、現地の人たちと交流し、また、おいしい現地の食べ物を堪能して、どの学生もたいへん充実した、そしてかけがえのない体験をし、大きく成長して帰国したことが、生き生きと手にとるように伝わってきます。

本学では、2004 年より海外短期研修を開始しました。当初は英語語学研修プログラムのみでしたが、現在は、英語以外の言語の語学研修や、派遣大学が開設する正規の専門科目の聴講等、さまざまな選択肢を備えた魅力的なプログラムを提供しています。また、本学が協定をもつ、英語圏の協定大学付属機関で英語の語学研修を受けたり、協定大学の正規授業を聴講することで、本学の単位（コア科目英語）が 4 単位まで認定されることも、本学主催の短期研修の魅力です。

本学主催の短期研修のもうひとつの魅力は、国際教育センターが研修の質を保証できるプログラムを提供していることです。研修の内容を精査した上で、本学と協定を結んだ大学へのみ学生を派遣するという方針、渡航前オリエンテーションおよび「異文化適応」や「危機管理」に関する事前研修の提供、説明会に加え、前年度研修参加者との短期留学相談会を開催するなど、短期研修の効果を最大限に高める機会を提供しています。研修は比較的短期間ですが、事前準備から帰国後の振り返りまで、きめ細かく一貫したサポートをすることで、研修の体験をいっそう充実したものにするお手伝いをしています。

報告書を読むと、海外で実際に生活することで、さまざまな価値観に触れ、自身の日本人としての視点を求められることを実感し、確実にグローバルな視点や共生の姿勢を獲得して成長している参加学生の姿が浮かびます。大学生活に留学を組み込むことを考えている学生のみなさんにもぜひ参考にしていただきたいと思います。

本プログラムの企画・運営にたずさわる国際教育センターとしても、参加者に充実した体験を提供できたことを実感し、たいへんうれしく思います。短期研修プログラム推進主担当として説明会や事前研修、個人相談等企画から運営まで尽力された AF（アソシエイトフェロー）の松田デレク先生にはお世話になりました。また、講師の渡辺紀子先生、長塚尚子国際教育センターアカデミックアシスタント、お茶の水女子大学国際課職員のみなさんにも、さまざまな形でこのプログラムを支えていただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2018 年 2 月吉日

目次

マンチェスター大学（イギリス）.....1

研修参加者からのアドバイス.....18

ニューサウスウェルズ大学（オーストラリア）.....22

研修参加者からのアドバイス.....31

ウィーン工科大学（オーストリア）.....33

研修参加者からのアドバイス.....50

ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院（イギリス）.....54

研修参加者からのアドバイス.....59

ストラスブール大学（フランス）.....61

研修参加者からのアドバイス.....70

ボン大学（ドイツ）.....72

梨花女子大学校（韓国）.....81

研修参加者からのアドバイス.....86

ブルゴス大学（スペイン）.....88

MANCHESTER
1824

The University of Manchester

マンチェスター大学短期語学研修を終えて

生活科学部人間生活学科
１年　佐藤瑳月

授業内容

大学の授業では同じ時期に来ていた日本の他大学の生徒や、中国、サウジアラビアの国の生徒とともに学びました。授業では最初に受けたプレイスメントテストを基準にした教科書を元に発音や文法、会話などを行いました。私のクラスでは会話を中心としたクラスが多く、話すことで英語を正しい文法と発音を身につけ、新しい単語を覚えることができました。会話中で文法などが間違っていると、先生が指摘してくれ正しく直してくれて同じ間違いを何回も繰り返すことがなくなりました。同じ英語圏でも発音がアメリカ英語と全然違って聞き取れないことが多くあったけれど、後半には難なく聞き取れるようになりました。また、アメリカ英語と単語自体が違って、通じないということもあったので驚きました。

課外活動

毎週金曜日はターゲットモジュールという午前中だけの課外授業がありました。実際にマンチェスターの街に出て、教会や図書館、美術館などに見学に行ったりしてマンチェスターについて知ることを目的としたものでとても楽しかったです。ある授業では街の人にインタビューしたりするものもあって、現地の人と触れ合う機会も持てて良かったし、日頃から習っている英語を実際に使えることに喜びと嬉しさを感じました。

休日は大学が主催しているツアーを使ってみんなで有名な観光地に行きました。どのツアーもとても楽しかったです。また、９月最後には３連休があったのでそれを利用してロンドンにも行きました。公共交通機関を実際に使ったり、人に道を尋ねたりして観光地を回ることはとても大変でしたが充実した連休になりました。最終日の夜に見たライトアップしたビックベンは言葉に表せないくらい綺麗でした。

寮での生活

寮は大学から徒歩で 20 分のところにありました。しかし、周辺にはバスがたくさん通っていたので、交通手段に苦労することはありませんでした。スーパーや１ポンドショップなども近くとても便利でした。また、近くに美味しいレストランやお店などがたくさんあったので、良かったです。寮自体では、キッチンが共同で二つあったので、広々と使うことができました。みんなで協力して自炊したり、誕生日を祝ったりして楽しかったです。

終わりに

会話の授業が多かったおかげで、英語で積極的に話したり発表できるようになりました。さらに知らない単語があっても文脈から推測するという力も身についたと思います。寮生活を通して、仲間と協力する力などを培うことができました。日本とは全然違う習慣、文化に戸惑いたくさん失敗をすることもあったけれど、とても貴重な経験になりました。実際にその国に行ってみないとわからないことはたくさんあることを知り、今後も色々な国に赴いてみたいという意欲が湧きました。

マンチェスター短期語学研修報告書

生活科学部　人間・環境科学科
1 年　三森彩音

授業内容

マンチェスター大学の中でも、留学生向けの英語強化プログラムに参加した。

初日に文法・語彙、ライティング、スピーキングの3分野からなるテストを行ったのち、その成績に合わせてクラス分けがなされた。クラスによっては、中国人など、多国籍で構成されるが、私の在籍していたクラスは上智大学 4 名とお茶の水女子大学と 3 名いう、日本人のみで構成されるクラスであった。

授業内容は、主にリスニングとスピーキングが強化される内容であり、配布された教科書の中のトピック（例：リーダーの素養とは何か、自分の家族について、など）に合わせて、ネイティヴの先生、あるいは学生同士で意見交換をした。週末に自分が行ったことについて短時間でプレゼンテーションを作成し発表するなど、英語を実用的に用いる訓練も行った。また、Target module という授業では、マンチェスターの歴史を学ぶ異文化学習に加え、マンチェスター市民に街頭インタビューを行い、異文化交流をする機会も与えられた。

全体を通して、授業中に先生から常に意見を求められるので、常に集中して質問を聞き取れるようにし、また自ら率先してその質問に答える必要があった。米式英語を英式英語に訂正されたことは多いが、先生はたとえ文法や発音が間違っていても留学生が伝えようとすることを推測してご教授くださったので、間違いを恐れる必要はなく、とりあえずなんでも発言しようとする姿勢が重要だと感じた。

課外活動

学内の International Society という団体によるマンチェスター市外への旅行プログラムに毎週のように参加した。行き先は、リバプール、ウィットビー、ヨークなどさまざまであり、大学の無料送迎バスに乗って、日帰りの週末旅行に参加した。その地域にみられる歴史的建造物や自然に触れる機会が得られた。

また、自分たちでロンドン旅行を計画し、演劇やクラシックを鑑賞したり、大英博物館において世界的に珍しい展示物を見学したりするなど文化的な活動に勤しんだ。また、8・9月の一般開放につき、バッキンガム宮殿の内部を見学したことが、個人的に滅多にできない貴重な体験であったと感じた。

生活全般

○滞在先について

学校から歩いて30分ほどの場所にある学生寮に滞在した。登校初日は遠く感じたが、慣れるとバスなども使えるようになり、それほど負担にも感じなくなった。近くにスーパーやカフェ、レストランもあり、場所としては非常に便利であった。

寮の中は、各自に洗面台付きの一部屋が与えられ、トイレ/シャワールーム/キッチン/洗濯機は共用であった。部屋は広く、ベッドや大きいクローゼットもあり比較的快適であったが、断水や洗濯機の故障などがごくたまにあり不便さを感じることも多々あった。

〇食事について

滞在前に「イギリスは食事が美味しくない」という話をきいていたが全くそんなことはなかった。大学の近くにはファストフードショップが点在しており毎日違うメニューを安価で楽しめた。特にイギリスの名物料理であるフィッシュ&チップスは大量のフライドポテトの上に白身魚のフライを乗せたものであり、滞在中は何度も口にした。イギリスの料理は、ほとんどの料理の付け合わせにフライドポテトがついてくるのが特徴であり、多少カロリーは気になった。

日本食が恋しくなったときは、やや高価ではあるが日本食レストランもあり、また中華食品のスーパーにも日本の食材が豊富に並んでいた。

総じて、一切食には困らなかった。

最後に

私にとって、海外での生活は初めての体験であり、滞在前は不安も多かった。特にマンチェスターは渡航の直前にテロ事件が発生しており、治安が不安になり、行くのをやめようかと考えたこともあった。しかし今回の留学で、異なる文化の人々と関わりあったり、寮の仲間と協力しあったり、自分の言いたいことをなんとか自分の英語で伝えようとしたりと、日本では絶対にできない貴重な体験をたくさんして、留学をやめなくてよかった、イギリスに行ってよかったと強く感じている。また、長期での留学を視野に入れた時に、現段階の自分の英語力の何が足りないか、今後日本に帰ってからどう英語学習を続けて行くかということを明確にすることができた。

今後、消極的なお茶の水女子大生には、ぜひこの貴重な留学体験に参加し、自分の視野を広げていってもらいたいと、私は考える。

マンチェスター大学短期語学研修

理学部　生物学科
1 年　三尋木幸恵

授業内容

写真 1　クラスメイトと担任の先生

授業は 1 コマ 1 時間半で，1 日 3 コマあり，9 時半から始まり 3 時半までだった。授業には 2 種類あり，通常の授業が週 10 コマ（2 人の先生が交代で担当）と，Target Module というイギリス文化を学ぶ授業が週 4 コマあった。特に，金曜日の Target Module は 2 コマ続きで，マンチェスター市内の建物や博物館を見学しに行った。学生は 1 クラス 10 人程度で，毎週のように人が入ったり帰国したりして入れ替わった。2 週目以降はクラスのほとんどが日本人だった。

1 週目は，緊張と，英語でのコミュニケーションへの自信の無さからほとんど発言できなかったが，同じクラスの中国人の学生から気さくに話しかけてもらい，励まされたことで徐々に英語での会話に慣れていき，自信がついた。また，中国人の学生の，新しい言葉を自分で作ってまで言いたいことを伝えようとする姿勢には驚かされ，刺激を受けた。金曜日の Target Module が終わった後，先生と 2 人きりで帰ったことが度々あり，そこで会話を途切れさせないようにしたことも，コミュニケーションの訓練になったと思う。

2 週目に，違うクラスのサウジアラビア人の 2 人と，3 人チームでプレゼンテーションをする機会があった。役割分担や原稿の準備，メールでのやり取りなど，英語での実用的なやり取りをした経験は貴重なものだった。このときも，チームのメンバーに励まされ，助けられることが多かった。始めは不安だったが，発表を終えて先生から前向きなフィードバックをもらったことで，自分のコミュニケーション，作文に自信がついた。

これらの経験を得たことで，2，3 週目以降からは，クラスの中で最も発言するようになっていた。

課外活動

毎週，週末はイギリスの他の都市へ旅行に行った。ロンドンへは 8 月末の 3 連休を利用して泊りがけで行った。旅行では，駅員や店員に話しかける機会が多かった。先生や他の留学生と話すときとは異なり，聞き取れず何度も聞き返したり，また聞き返されたり，内容が理解できないこともあった。ただ，私たちが留学生とわかると，ゆっくり簡単な言葉で話し

てくれた人もいた。

旅行では，イギリスの交通の不安定さに度々悩まされた。電車が止まったが代替手段が無い，休日は地下鉄が動かない，時刻表が間違っていた，途中の駅が使えなくなって電車が運休になった，など，日本との感覚の違いに驚かされた。それでも，駅員やほかの乗客と話し，トラブルを乗り越えられたのは良い経験だったと思う。

旅行に限らず，友人とマンチェスターで服を買いに行ったり，中国人のクラスメイトと一緒に食事に行ったりと，授業以外でも英語を使う機会は少なくなかった。

生活全般

授業で使っていた建物から歩いて 25 分程度のところに寮があり，近くにスーパーが数軒あったため，不便は感じなかった。食事はほとんど自炊だったが，時々スーパーで出来合いのものを買うこともあった。レストランやパブが寮や授業の建物の近くにあり，そこで食べることもあった。私の場合は，イギリスの食べ物があまり合わなかったこともあり，アジア系のスーパーに売っていた日本の調味料を使って自炊することがよくあった。

寮での生活で最も大変だったのは，何度か断水した時期があったことだ。ペットボトルの水が配られたり，すぐに修理を呼んでもらえたりしたが，慣れないことだったので非常に気疲れした。

研修を終えて

文法の授業で先生に教わった表現を会話で使ってみたり，慣れない料理に挑戦したりと，滞在中は，何事に対しても積極的に取り組み，前向きに考えられるようになっていた。

英語でのコミュニケーションの上達を最も感じたのは，英語で冗談を言って笑ってもらえた時と，人の話をさえぎってまで話そうとした時だった。授業でもスピーキングの機会は多くあったが，それ以上に，授業外の時間で得た会話の経験が，自分のスピーキングの向上に役立っている気がした。

担任の先生との最後の面談で，ぜひスピーキングの練習を続けてほしい，と言われた。多くの人に励まされ，成長させてもらったと感じたので，今後も自分で英語の学習を積極的に続けたいと思った。

マンチェスター大学夏季短期研修報告書

生活科学部　人間生活学科
２年　河浪里菜

授業内容

授業内容については、初日に決められたクラスにより異なりますが、私のクラスでは、基本的な文法、発音、語彙をディスカッションやゲーム形式で学びました。また、金曜にあるターゲットモジュールでは、産業博物館や戦争博物館などマンチェスターの観光名所に連れて行ってもらいました。

写真についてですが、これはクラスで発表をするときの課題で、この銅像についてパワーポイントで発表するというものでした。まず、宝探しのように銅像を見つけることから始めるので、発表は少し大変だったけれど楽しく学ぶことができました。

課外活動

課外活動については、いろんなところに観光に行きました。イギリスは歴史的な建造物が多く、説明が英語で書かれているので少し読むのが大変でしたが、今まで知らなかったことが知れてとても面白いと感じました。下の写真はヨークに行ったときのもので、かつてのヨーク城の一部が小高い丘として残る「クリフォーズ・タワー」です。

また、他の国からきたクラスメートや他大学との交流もあり、一緒にご飯を食べに行ったり、コモンルームで飲み会をしたりしました。下の写真は、全員がお茶大ですが、みんなで誕生会をしたものです。

生活全般

生活全般に関しては個人個人で意見が異なると思いますが、私は特に困ることはなく過ごすことができました。寮には生活に必要なものがほとんどありましたし、スーパーや１ポンドショップが近くにあったので、すぐに買いものもしやすかったです。イギリスに行くときには食事について不安でしたが、いろんな国の料理の店があるので取り立ててまずいということもなかったです。また、イギリスで有名なフィッシュアンドチップスは個人的にかなり美味しいと感じました。下の写真はウィットビーに行ったときに食べたものです。

ただ、気候については日本とかなり違い、思っていたよりも大分寒かったです。先生が言うには、８月はもう秋だそうで、確かにコートを着てもよいくらい冷えこむ日もありました。しかし、それも日や時間帯によってまちまちで、半そでで過ごす日もありましたし、室内はかなり暖かいので薄着でも問題ありませんでした。

マンチェスター大学短期研修

生活科学部　人間・環境科学科
2 年　横山実桜

授業内容

文法、スピーキングが基本。火曜木曜の午後は息抜き授業で英文化等についてゲーム感覚で学び、金曜午前は遠足。1 日目にはクラス分けのため小テストとスピーキングテストを行った。クラスに日本人以外が必ずいるとは限らず、私のクラスは日本人 7 人にイギリス人の先生一人で ALT の先生が来ました状態だった。一度だけ実際の講義を聴講させてもらえる機会があった。周りの日本人は寝ている人が結構いたが、わかりやすく順序立てて講義してくださりかなり面白かった。

課外活動

土日は全て旅行に費やしたが、事前に何も考えておらず帰る直前になってヨークに行ったほうが良かったとかエディンバラが綺麗らしいとかいう情報を手に入れてかなり後悔した。事前リサーチは大切。ロンドンでアフタヌーンティーをしようと思っているならば必ず早めに！！！予約を！！！！！有名なところは予約が取りにくい。私たちは二日前に急いで予約したので選択肢が多くはなかった。

生活全般

・街並み

マンチェスターの街は汚く、建物は良くも悪くも古い。歴史的な建造物は綺麗に管理されてはいるが私たちの寮は廊下のカーペットは謎のシミが大量、部屋の椅子はカビが生え、天井と壁の境目には隙間がたくさん、水道管が傷んでいるせいなのか天井内部から水滴の音がしたり天井の一部が水を吸って落下したりした。だが古い建物を改築する取り組みが行われているらしく、工事をしている場所も多かった。

・交通

町中に二階建てバス。道路の車の半分はバスだと思われた。電車は便利だがあてにならない。遅延、工事中で振替輸送バスは日常茶飯事。一時間半遅延して返

金申請したことは良い経験になった(お金戻って来なかったけど)。

・食事

まずいわけではないが美味しい！とも言い切れず。。。ただしクリームティー(スコーンと紅茶のセット)はどこのお店のものもとてもよかった。個人的にはマンチェスター大聖堂の目の前にある proper tea が明るくかわいらしく、女子大生にぴったりのインスタバエ感でスコーンの種類も豊富で美味しいので是非オススメしたい(右写真)。お茶をするならマンチェスターシティホールの中のカフェも内装が美しく落ち着いた雰囲気で楽しめた。

・天候

毎日小雨で晴れても数時間、風が冷たく寒い。冬物コートがあってもいいレベル。半袖は寮の中でしか着なかった。小さくたためるダウンコートがあると便利だったかもしれない。毎日雨が降るがいちいち傘をさしてられないので防水処置のされたアウターは必要。

・治安

かなり良い。夜の池袋の方がよっぽど怖い。だが観光客丸出しでキョロキョロしていると声をかけられることがあるのでできるだけ荷物を少なく堂々と歩く必要があると感じた。またホームレスがかなり多かったがしつこく絡んでくるような人は一人もいなかった。アジア系の人も多いので、昼間に慣れた風に？歩けば裏道にふらっと一人で入って問題はないだろう。マンチェスター以外の街も同様で、ロンドンも他の都市もかなり治安はよかった。私たちのメンバーはどうも個人行動が多く、ロンドンはほぼ一人で観光し、ウィンダミアという湖水地方も友達の電車トラブルで結局行きから帰りまで全て一人、しかもスマホの充電が切れるというトラブルもあったが適当なカフェで充電できたし十分楽しめた。

全体を通して、イギリスは予想以上に安全で人々の優しい良い国であることがわかった。

マンチェスター大学夏季短期研修　報告書

理学部　情報科学科
2年　黒田彗莉

マンチェスター大学における夏季短期研修は、2017年8月6日から9月11日の日程で行われた。

研修内容

授業はマンチェスター大学の建物の一つであるOddfellows Hallという場所で実施された。初日に文法やライティング、面接のテストを受け、それによってクラス分けがされた。一回の授業は90分授業で、月曜から木曜は9:30〜15:30(ブレイクタイムは11:00〜11:30、昼休みは13:00〜14:00)、金曜は9:30〜13:00で行われた。週14コマの授業があり、そのうち10コマがCore Language Moduleという教科書を用いた、文法や語彙、リスニングなどを行う授業で、残りの4コマはTarget Moduleというイギリス文化について学ぶ授業だった。

クラスには日本人の他に、中国人やサウジアラビア人の生徒がいた。日にちが経つごとにできる会話も増え、コミュニケーションをしっかり取れている、と実感した時はすごく嬉しかった。

課外活動

月曜、水曜の3コマ目と金曜の1.2コマ目がTarget Moduleの授業で、特に金曜は課外活動が中心だった。マンチェスター市内の博物館などを訪れた。ただ鑑賞するだけではなく、展示物などについて調べ、翌週月曜の授業時に調べた内容を発表する、ということが多かった。授業の課外活動を通して、マンチェスター市内の有名な観光スポットは回ることができた。

調べた内容を発表するときはなるべくメモを見ずにクラスメイトの前で行ってみよう、と先生に言われたので、留学当初はすごく緊張した。しかし何回か回数を重ねると慣れていった。わかりやすく自分の言いたいことを考えながらも堂々と発表することの大事さを改めて感じた。

生活全般

Hulme Hallというマンチェスター大学の寮に滞在した。ここは、授業を受ける建物(Oddfellows Hall)まで徒歩25分、最寄り駅のManchester Piccadilly station)まで徒歩40分、バスで20分とやや不便な位置にあった。しかし寮の近くにはたくさんスーパーが

あったので食事等足りないものがあったらそこで買うことができた。寮内は、一人一部屋で、トイレ・シャワー・キッチンは共用だった。

また、マンチェスターの気温は日中でも 20 度にいかないことが多く、雨がよく降るので 8 月でも非常に寒かった。半袖は持ってこなくてもよかった、と感じた。

週末は様々な場所に出掛けた。授業は平日のみで特に金曜は 13:00 に終了したので、遠出(ロンドンやエディンバラ)する時は金曜の午後にマンチェスターを出発し、時間を有効に活用した。具体的には、ロンドン、エディンバラ、チェスターに行った。それぞれの街が全く別の景色や雰囲気で、その違いに驚かされた。また地域によって訛りがあるので、聞き取りが難しいこともしばしばあった。

マンチェスターに滞在しているときもだが、ロンドンなど人が多い場所は特に、カバンからのスリなどに気をつけた。常に手でカバンを抑えながら歩いていた。常に危機感を持って行動していたため、今回の留学中に私自身に怖い出来事(スリや脅し)にあうことはなかったので安心した。危機感を持った上で楽しむことが重要に感じた。

感想

今回の短期留学がわたしにとって初めての海外渡航であった。海外に行ったことがなく、英語も話せないので不安しかなかった。また留学して 1 週目からホームシックになり、あと 4 週間も生活していけるのかも不安であった。しかし、授業や課外活動、先生との会話を通して自分の英語が全く伝わらないわけではない、ということに気がつき少しずつ自信が湧いてきた。そこからは、自分の苦手なスピーキングを伸ばすためにどうすれば良いかを考えながら日々過ごしていった。また、自分の意見をしっかり持つ大切さにも気づかされた。Yes/No の意見を持っていても、理由を聞かれた時は答えられない、ということが多かった。終わってみれば短く感じた短期研修だったが、得られたものは非常に大きかった。この経験を今後の学業や生活に生かしていきたいと思う。

留学を終えて

理学部　物理学科
２年　春山莉花

授業内容

授業は３種類ありました。そのうちの２つは教室で教科書を使っての授業でした。教科書に載っている文章を読んで、それに関する質問について、自分の意見をペアで話し合ったり、文章の書き方を学んで実際に書いたり、大学にある像について調べてペアでプレゼンを行ったりしました。この時のクラスにはサウジアラビア人と中国人がいたので、英語で話し合うことはとても苦労しましたが、新たな意見を聞けたし、英語でいかに伝えるかの勉強になりました。また、先生に意見を聞かれた時、どんどん新たな質問をされるので、素早く考えをまとめて自分の知っている表現で言葉にすることが求められ、スピーキングの力が鍛えられたように思います。もう１つの授業は教室を出ての授業でした。科学博物館や図書館に連れて行ってもらい、イギリスの歴史やマンチェスターの町並みについて学びました。この授業の私たちの先生は特に優しくて、私たちに興味のあることを聞いて、それに基づいて行き先を決めてくださいました。先生はいつも選択肢を与えてくださり、選択肢にないことでも自分の意思を伝えるとそれを受け入れて、できる限り私たちの自由にさせてくださいました。この時のクラスは日本人だけだったので、日本語を使ってしまうことが多かったです。

課外活動

大学のバスでウィットビーとリバプールに行きました。2回まで無料だったのでどちらも無料で行くことができました。8月末の3連休ではロンドンに行きました。行き帰りの電車のチケットは駅のカウンターで買いました。何時のチケットがあるか、いくらするのか、全部そこで職員の方に聞きました。うまく聞き取れなくて20分くらいかけてしまいましたが、優しい方で、最後まで付き合ってくださいました。ロンドンでは私はほとんど一人で動いていました。デパートの店員さんに日本の話をしたり、観光地で同じく一人のお姉さんと写真を撮り合ったり、危険と隣り合わせではありましたが、一人でいたからこそ英語を使う機会があったと思います。

生活全般

私は一人暮らしをしたことがなく、自炊をしようという気が起こらなかったので毎日買ったものを食べていました。共同のキッチンに冷蔵庫があるので、スーパーで買ったものを入れておき、朝と夜は基本的にそれを食べました。昼は、授業を受けていた建物の近くにハンバーガーやフィッシュアンドチップスが安く売っているお店があり、よくそこで食べていました。月曜から木曜は授業が3時半に終わるので、寮までの帰り道にあるスーパーで買い出しをして帰り、シャワーを浴びてご飯を食べて、10時には寝ていました。基本的に宿題は30分で終わるくらいのものだったので、眠い時は8時に寝ることもありました。私は眠いと英語

が全く頭に入ってこなくなるので心配でしたが、毎日充分に睡眠をとることができたので良かったです。寮から授業を受ける建物までは徒歩 30 分程で、朝は寒かったですが運動になりました。8 月の終わりからはより寒くなってきたので、ヒートテックが手放せませんでした。

感想

私は今までただ与えられた道になんとなく進んで、大した苦労もなく生きてきて、このまま生きていても仕方がないなあとぼんやり留学を決断しました。今、留学を終えて、あの時私は留学に行くと決断して本当に良かったと言えます。約 1 か月の留学で、英語がペラペラ話せるようになるということはありません。もちろん来た時よりも帰る時の方が英語で言いたいことを言えるようになりましたし、リスニング力も上がったと思います。しかしそれ以上に、自分の弱いところが次々むき出しになり正面から向き合わざるを得ない環境におかれて、初めて自分のことを知れたと思います。

世界に言語が一つだけだったら楽だったでしょう。しかし世界には様々な言語が存在し、そんな世界であることには必ず意味があります。私たちは同じ人間だから、言葉がなくても何となく相手の気持ちは伝わるし私の気持ちも伝えられます。だから言葉なんて必要ないと言われてしまったらそれまでですが、それでも私はクラスメートにたくさん親切にしてもらって、伝えたいことがたくさんあったのにちゃんと言葉にして届けられなかった時、本当に本当に悔しかったから、英語を学びたいです。悔しさも嬉しさも弱さも、留学中に感じた気持ちすべてが私を成長させてくれました。この一ヶ月を私の人生でかけがえのない時間にしてくださった全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

マンチェスター大学での研修を終えて

理学部　情報科学科
２年　松本茉倫

授業内容

初日の授業ではクラス分けのテストがあり、月曜日から木曜日までは１日３コマ、金曜日は１コマの主にスピーキングの授業がありました。他の大学の日本人や中国人、サウジアラビア人と一緒に授業を受けました。サウジアラビアや中国の文化を知ることができ、とても刺激を受けました。先生たちは親切で充実した授業でした。

課外活動

放課後は上智大学の人とカレーや餃子を作って食べたり、フットボールの試合を見に行ったりしました。マンチェスターでもアフタヌーンティーができるお店がいくつかあったので何度か行きました。

週末はウィットビー、リバプール、ロンドンに観光もできました。ロンドンでは特に、レ・ミゼラブルとクラシックのコンサートを鑑賞したことがとても良い思い出です。

困ったこと

留学で困った事は寮で盗難があったことです。部屋の清掃の際に盗られてしまうこともあるので、部屋の鍵だけではなく貴重品はスーツケースに入れて鍵をかけておいて、共有スペースには盗られたくないものは置かないことをおすすめします。

また、マンチェスターは８月でもすごく寒いので冬服を持って行くべきだったと後悔しています。ヒートテック、セーター、ダウンジャケット（ウィットビーやエディンバラへ行くなら）は寒がりでなくても持って行くべきです。カードはJCBがあまり使えなかったのでVISAがいいと思います。

持って行ってよかったもの
・サトウのご飯
・クロックス（寮の中で履くため）
・はし
・タッパー
・デビットカード（現金が足りなくなった時に ATM でおろせる）

生活全般
　マンチェスターは割と都会だったので大抵のものは揃えることができました。日本の食べ物（調味料、お米、お菓子など）は教室から少し歩いたところにある中国スーパーで買えるので唐揚げや肉じゃがを作ったり、ご飯を炊いたりして日本食はよく食べていました。デパートやショッピングモールも充実しているので買い物に困ることはありませんでした。また、バス・電車・路面電車など交通機関も発達していて移動する際はとても便利です。ヨーロッパ系の人だけでなくアジア系の人も多く住んでいて、中華・韓国・インド料理といった多国籍の料理を楽しむことができました。揚げ物が結構多いので、苦手な人は日本から食べ物を多めに持って行くといいです。Wifi はわりとどこでも使えたので、レンタルする携帯電話はデータ通信なしでもよかったかなと思います。

終わりに
　私はスピーキングに対して苦手意識がありましたが、この研修を通して間違いを恐れずとりあえず何か話してみるという姿勢が身につきました。また、初めての寮生活では協力することの大切さを学びました。最初は食べ物がとても不安でしたが、イギリスの食べ物は美味しくて、すぐに順応できたことはとてもよかったです。今度は一人でもイギリスに旅行に行ってみたいです。

研修参加者からのアドバイス（マンチェスター大学）

1. 出発前に、気を付けたほうがいいこと
   - スーツケースの重さが 23Kg を超えないよう注意。
   - 帰りは絶対に荷物が増えるので、予備のボストンバッグ(ロンドンに行く時にも使える！）や大きめの折りたたみバッグがあると便利。スーツケースをあっちで買うのもアリ。
   - 思いきって郵送もいいかもしれない。
   - ヒートテックを持っていく。
   - マンチェスターは割となんでもあるので完璧に持っていこうとしなくても大丈夫。
   - デビットカードがあると、現金がおろせる。
   - イギリスは夏でも想像しているより寒いので、洋服選びは慎重に行う。
   - 荷物を行きから入れすぎない。
   - 思っていたより寒かったので長袖など暖かい服は準備しておく必要があります。
   - 体調管理。
   - IT アカウントの作成は、出発直前に行わないといけないが、時間がかかるので、住所の書き方や学位の書き方を調べておいた方が良い。
   - 寮の場所は毎年違うようなので、事前に調べて、授業を行う建物との位置を調べておいた方が安心。
   - マンチェスターは夏でも朝は１５度にいかない日もあるほど寒いので、折りたためるウィンドブレーカーダウンジャケットを持っていくと良い。

2. 研修先の授業
   - 全員日本人の可能性大。
   - 大学の実際の授業にはなかなか参加できず、英文法とスピーキングについてが主。
   - 自分から発言すること。
   - 最初は英語も聞き取れなく自分の意見も伝えられないので不安だったり悔しい日が続くが、それは仕方のないことで自然と慣れていくしかな

い。思い詰めるよりは、楽しみながら授業を受けようと気持ちを切り替えた方が良い。

- 日本人が多いですが英語オンリーの授業です。
- 日本人は当てられないと話さないが、自分から発言しないと損。
- 紙の辞書も置いてあったが、電子辞書も使ってよかったので必須。
- テキストが配られるので、ノートとファイルがあれば良い。
- PowerPoint を使う機会が多かったので、パソコンは持っていった方が良い。
- リスニングの教材を聴いてくる宿題があったので、イヤホンは必須。

3. 寮

- 汚い。が、慣れます。断水と天井材が落ちたのは辛かったけど。レセプションの人は雑だけど優しいし、大学のすぐ近くだし日本人ばかりなので寮の中はかなり安心感がありました。
- いろいろな人がいるから、キッチンやトイレ、シャワーが汚れていることもある。
- 寮は学校、駅から遠いところにあった。毎日歩かざるを得ないので健康的ではあった。
- 冷蔵庫に飲み物を入れておくと、現地の清掃員に飲まれたりしたので防衛が大事だった。
- キッチン、トイレ、シャワーは共有で、ごく稀に断水します。
- カードでドアが開かない、断水、などトラブルが必ずあるのでレセプションのやっている時間を把握しておく。
- 寮の共有スペースに私物を置かない。とられることがある。
- 断水がよく起こったので、ペットボトルの水が常備してあると安心。
- 洗濯は 1 回の値段が高かった。

4. 食事について

- 食事はなんだかんだいって自炊は楽しいしレストランが結構多いので食いっぱぐれることはありません。チーズや肉は日本より全然安いし美味しいし、最高です。先生にオススメのレストランを聞くと予算に合わせてたくさん教えてくれます。クリームティーは本当にオススメです。

1番はマンチェスターカテドラルの目の前の proper tea のクリームティーです。是非行ってみてください。

- 最初は馴染めないかもしれないので、すぐ食べられるような日本の食べ物を持っていく。(カップ焼きそばやサトウのご飯)
- イギリスの食事はまずいと言われているが、まったくそんなことはなかった。基本的にジャンクフードしかないので、健康面を気にするなら自炊した方が良い。
- イギリスは食事が美味しくないときいていましたが、思っていたよりも美味しかったです。
- チョコクロワッサンがおいしい。
- スーパーの食材は日本より安かったがレストランは日本より高い。
- キッチンには刃物がほとんどなかったので、小さい果物ナイフはあると便利。

5. 現地の学生・地域の方々との交流について
   - 普通に生活していると先生とお店の人しか交流がないので毎週水曜日にやっている Wednesday social には1度は必ず参加すべき。色々な国からきた院生と仲良くなれます。寮でも、なんか酔っ払って騒いでいる人がいたら話しかけてみると楽しいかも知れません。
   - 自分から関わっていこうとしないとあまり交流できない。
   - 現地の学生は休暇中だったのでほぼ会えなかった。しかし留学に来ている中国人やサウジアラビア人と同じクラスだったので交流できた。
   - 学校の授業の中で、現地の人に直接インタビューする、という授業がありました。
   - 日本に興味を持ってくれている人が多いので、日本からお土産を持って行くと喜ばれる。
   - 駅員さんやスーパーの店員さんと話す機会は多かった。それ以外はほとんどなかった。
   - たまにお金が欲しいと頼んでくる人がいるので注意。

6. お金について
   - クレジットカードは絶対必要。VISA にしましょう、他のは使えないこ

とも多いです。また、学生なので友達間での割り勘が多くなります。現金をいつでも下ろせるようにしておくと便利だと思います。そんなに物価高い！とかは思いませんでした。

- 大抵はクレジットカードで払えるが、割勘したときに現金が必要なので、現金が 10 万くらいあるといい。
- 現金とクレジットカードを持って行った。イギリスは日本と異なりクレジットカードを使うことが主流だが、ときどき使えない場所もあるので現金も持って行った方が良い。
- 物価は日本より安かったです。
- 基本カードでいけるが、友達と割り勘する時やチップ用に現金が必要
- 現金は 5 万円分持っていった。ほとんどクレジットカードで済んだのであまり必要なかった。
- 現金がないといけない場面は、マンチェスターではバス、駅のトイレの入場料、寮にあった自販機くらいだった。
- ATM が町のいたるところにあった。

7. その他

- ロンドンも含め、どの場所でも意外と安全です。深夜の池袋の方がよっぽど怖いです。電車も独りで乗るし、街巡りも独りでするし、休日の旅行も電車の予約も寮を出るところから寮に帰るまでも完全に独りで、しかも途中で携帯の充電が切れてしまったけど全然焦る必要もありませんでした。あ、充電器は必ず持ち運びましょう。
- 英会話の本が 1 冊あると、ネットが使えないときでも便利。
- 出発前にどこに観光に行きたいかなどある程度目星をつけておくと良いかもしれない。
- 休みの日に旅行の計画を積極的に立てると有意義です。
- 飛行機の乗り継ぎの時間が長い。
- マンチェスター市内でも、怪しい人に声をかけられたことが何回かあったので、そのときは関わらないでその場を立ち去る。
- 事前研修でもっと同じ研修に参加する人と交流する場所が欲しかった。

SCIENTIA

MANU ET MENTE

UNSW

AUSTRALIA

UNSW 留学報告

文教育学部　人文科学科
１年　木下明歩

授業内容

私のクラスでは、大きく分けると二種類の授業がありました。

一つは、教科書を使って文法・語彙・イディオムを学ぶタイプの授業です。その後、それらを使って話し合いをしたり、文章を書いたりしました。

もう一つは、教科書から全く離れて、プレゼンやディスカッションをするというものでした。特に楽しかったのは、遠足計画をたてる時間でした。グループにわかれておすすめの遠足スポットを紹介しあい、最も魅力的なスポットを決めるというもので、最後の週には実際にその場所へ行きました。

リスニングが苦手な私には授業についていくのが大変な時もありました。しかし、先生方に聞けばよりわかりやすい言い方で伝えなおしてもらえますし、クラスメイトに聞くと、会話のきっかけにもなりました。

クラスメイトの国籍・年齢は様々でした。そのため、休み時間にクラスメイトの母語を教えてもらうことができ、盛り上がりました。クラスメイトとの年齢差には、最初は戸惑いましたが、話すとすぐに打ち解けることができました。研修が終わった今でも、各種の SNS を通じて連絡を取り合っています。

短期留学だけで語学が飛躍的に向上することはないとよく言われます。しかし、何かを伝えたいのにうまく伝えられないもどかしさを体感することで、語学への意欲が上がるのは確かだと思います。

課外活動

〈日本語ボランティア〉

UNSW の語学学校で日本語を学んでいる方々と会話の練習をするというボランティアに参加してきました。この活動は学校のカフェテリアのポスターでみつけました。活動時間が夜遅かったので何回も参加することはしませんでしたが、とても良い経験になりました。

〈NSA〉

NSA は、日本文化・日本語に興味を持っている学生の集まるサークルです。Facebook を通じて連絡を取り、お花見のイベントなどを経験しました。メンバーは日本語コースの履修者ばかりかと思っていましたが、案外そういったことはありませんでした。そのため、英語で会話するいい機会となりました。

〈観光〉

一か月以上滞在することができたのでかなり多くのところを回ることができました。空港に置いてある無料の英語版観光マップを偶然手に取ったところ、日本語版にはついていない様々な割引券がついていたので、割引料金で楽しく観光できました。

生活全般

〈外出時〉

平日は午前９時から午後１時半まで授業があったので、そのあとに買い物やお出かけをしました。オーストラリアでは、お店や観光地の営業時間が短いので、学校から直接シティーに向かうことが多かったように思います。

〈食事〉

朝食はシリアルで、昼食は自分で用意したもの、夕食はホストマザーが作ってくれる様々な料理でした。私のステイ先は、「冷蔵庫を勝手に使ったり、調理器具を勝手に動かしたりしない」というハウスルールがありましたので、昼食は外食やパン屋さんのパンが多かったです。小分け包装の食べ物はなかなか売っていない上に、売っていたとしても割高で、大変苦労しました。

〈ステイ先〉

私のステイ先は、女性の一人暮らしの家でした。きれい好きな方だったので、清潔な部屋に泊まることができました。ただ、この方はユダヤ教徒で、私は途中までそれに気が付きませんでした。そのため、ステイに際して渡したお土産の成分をよく確認せずにいたのは本当に反省しています。幸いにして問題はなかったのですが、いくら日本人は宗教観が薄いとは言え、初日に確認をとっておくべきだったと反省しています。

〈携帯電話・スマートフォン〉

ポケット Wi－Fi のレンタルをしなかったので、ステイ先にお金を払って、家の Wi－Fi を借りていました。そのため、外ではほとんどインターネットを使いませんでした。大きい駅にはたいてい free Wi-Fi が整備されていますので、困ったときにはそれを利用しました。

また、Google MAP は電波がなくても現在地が確認できますので、重宝しました。

スマホでクラスメイトとやり取りがしたいときは、主に Facebook の messenger を使いました。今までほとんど Facebook を使ったことはありませんでしたが、Twitter やインスタグラムより利用者が多いので、アカウントを持っていてよかったと感じました。

日本の友人・家族と連絡をとるのは、LINE や Twitter を使えば容易にできました。ただ、家族に連絡する頻度を決めなかったせいで、連絡が途切れた際に両親に大きな心配をかけてしまったことがありました。事前に、「一日一回は携帯を見る」など、ルールを決めておくべきだと思いました。

UNSW での研修を終えて

理学部　生物学科
1 年　山本紗衣

■授業内容

月曜日から金曜日の 9 時から 13 時 30 分まで授業があった。初日に行われたプレイスメントテストをもとにクラス分けが行われた。私はキャリアイングリッシュというクラスだった。授業は 9 時から 11 時、30 分の休憩をはさんで、11 時 30 分から 13 時 30 分という時間割だった。3 人の先生が曜日ごとに担当してくれた。主に文法、スピーキング、ライティングの授業を行った。文法は高校で習うレベルだった。時々、知らない単語があったのでもう少し語彙力をつけておくべきだったと思う。スピーキングではディスカッションやロールプレイを行った。自分の考えを短い英語でまとめるのに苦労した。ライティングは毎回出されるテーマにそって 150 字程度書いた。先生が添削をしてくれた。どの授業でもクラス内で 3，4 人のグループを作ることが多かった。授業中は先生が指名することもあるが、自分から発言していく姿勢が大切だと感じた。間違うことは恥ずかしいことではない。先生が授業するだけでなく、ビデオを使って学ぶ授業もあり楽しみながら学べた。最初の週は 7 人の少数のクラスでクラスメートも様々な国から来ていたが、2 週目からは日本の他大学から 9 人加わった。ほぼ半数が日本人になってしまったので少し残念に感じた。しかし、授業外でもみんなができるだけ英語を使って会話していた。毎週金曜日にはその週に学んだことを確認する小テストがあった。宿題は一週間でワークブック 3 ページほどだった。最後の週にはテスト、プレゼンがあった。またエクスカージョンもあり、楽しむ時間があった。

■課外活動

私は現地の学生と交流するために、UNSW の日本語クラスのボランティアと NSA という大学の日本に興味がある人たちのサークルに参加した。日本語クラスのボランティアでは日本語を学ぶ学生たちと会話をした。日本語を学んで数年しか経っていない学生たちとの交流を通して日本語の難しさを改めて感じた。NSA では花見に参加した。日本庭園を模した場所で桜を見ながら NSA の学生と交流した。桜は日本で見る種とは違ったがきれいだった。NSA に参加するのは遅くなってしまったのでもう少し早く参加できれば良かったと思う。平日の午後はいろいろなところに行った。学校内や周辺には様々な種類のお店がある。散策する

と楽しい。観光地では休日より人が少ないので、ゆっくり観光を楽しめた。学校から近いところは平日に行くと良いかもしれない。私はスーパーやショッピングモールに行くことが多かった。日本とは売っているものが違い、見ているだけでとても楽しかった。地元の人が行くところでは、旅行で体験できないことができた。休日はほとんど観光をした。動物園や博物館、その他の観光地に行った。シドニーには美術館や博物館がたくさんあり、建物もきれいなのでおすすめ。

■ 生活全般

ステイ先にはホストマザーと男性と 2 匹の猫がいた。2 人とも香港出身だったので 2 人で話すときは中国語で会話していたが、私がいるときは英語で会話してくれた。ホストマザーが起きる前に学校に行かなければならなかったので、朝食は家にあるパンやシリアル、果物を自分で用意して食べていた。昼食は家にあるものやスーパーで買ったマフィンやスコーン、自分で作ったサンドイッチを持って行って食べることもあった。物価が高いので家から持って行く方が良い。また私は水筒を持っていなかったが、ホストマザーが貸してくれたのでそれに水を入れて持って行った。夕食はホストマザーが作ってくれ一緒に食べた。毎日おいしいものを作ってくれた。中国や韓国などのアジア料理が多かった。ほとんど毎日ご飯を食べた。週に一回、外食をしてからスーパーに買い物に行く日があった。フォーを食べに行くことが多く、毎回違うところに連れて行ってくれた。買い物の時はおすすめのものや、オーストラリアならではの食材を教えてくれた。ホストマザーは日本のことについて興味を持っていたので日本の文化について話したり、時間があるときには一緒に日本のドラマや映画を見たりした。学校には電車とバスを使って通学した。電車は日本と同じように便利だった。停車駅がすべて表示されるので安心して乗れた。バスはバス停に名前がないので、どこのバス停で下りるのかしっかり確認しなければならなかった。電車とバスを使っていたからか交通費が結構高かった。洗濯は週に 1 回した。一週間の洗濯回数が決められていたわけではないが、オーストラリアが水不足と知っていたので洗濯を控えた。オーストラリアは冬だったので朝と夜は特に寒かった。家に暖房がなかったので家にいても寒いことがあった。ホストマザーが貸してくれたので寝るときに使っていた。また、日本よりもとても乾燥していた。

今回のシドニーでの滞在を通して、日本とは違う文化や考え方にたくさん触れることができた。自分の周りを見る視野が広がった。シドニーは多国籍なところで治安もよく、とても過ごしやすいところだった。

ニューサウスウェールズ大学語学研修を終えて

文教育学部　言語文化学科
２年　大長睦実

学校生活

学校は朝９時から午後１時半でした。昼食は学校のカフェテリアが値段が高かったため自分でサンドイッチを作って持って行きました。私のクラスは 18 人で、内 13 人は日本人でした。ですが、お茶大以外の日本人学生は全員一週間遅れて来たため、最初の一週間で先生とも他の国の留学生とも仲良くなることができ、日本人が多い中でもそれが大きなアドバンテージとなり充実した学校生活を送ることができました。授業内容は基本的に文法・スピーキング・リスニングでしたが、木曜日の午後にはライティング、水曜日の午後は観光ビジネスをテーマとする授業などがありました。また毎週金曜日には小テストがあり、その週の学習の振り返りをしました。私のクラスはビデオプロジェクトというものがあり、４人１グループでシドニーの魅力を紹介する５分の動画を作りました。動画を作るためには原稿を作ることから始まり色々なことが必要だったため、チームでたくさん話し合ったり、動画を撮るために街に出かけたりと、とても良い経験になりました。

ホームステイ

ホームステイ先ではホストマザーと二人での生活でした。私のホストマザーは看護師で、朝早く家を出るか夜遅く帰ってくるかのどちらかが多く、生活リズムが私とは違ったため顔を合わすのは週４日ほどでした。それでも時間があるときはお菓子を焼いてくれたり、一緒にテレビを見たり、家のバルコニーでディナーをしたり、良い時間を一緒に過ごすことができました。最初はマザーが忙しくて話す機会が少ないことに少しがっかりしましたが、５週間ホームステイをしてみて、今ではそれで良かったと思います。マザーは私を特別扱いしたり他人扱いしたりせずに、私を受け入れシドニーでのありのままの暮らしを経験させてくれました。私が「自分で」たくさんのことを経験できるように多くのヒントを与えてくれました。自分の生活がありながらも私を受け入れサポートしてくれたホストマザーにはとても感謝しています。

放課後、週末

前述した通り学校が１時半までだったため、放課後は学校の図書館で勉強したり、観光しに出かけたりしていました。現地学生の日本語の授業にボランティアスタッフとして参加させていただいたりもしました。土日も基本的に色々な場所に遊びに行きました。私は地球の歩き方を日本で購入して行ったので、そのガイドブックに載っている場所はかなり行き尽くしました。また、最後の週末にはクラスみんなでバーベキューをしたり、ブルーマウンテンズというシドニーから１時間半ほどのところにある名所に、現地でツアーを申し込んで行きました。また、私が大切にしていたのがクラスの留学生との時間で、一緒にご飯に行ったり遊びに行ったりしました。クラスでできた外国人の友達は、日本人が多い中、私にとってとても貴重な存在でした。そのため学校だけで交流するのはもったいないと思い自分から誘いました。私は大勢の中でコミュニケーションをとるのが苦手なので、一対一でたくさん話をする機会を自分で作れたことがとても良かったです。

最後に

今回の短期留学の自分の目標は、「英語を最大限に使って世界を広げる」ことでした。私はこの目標をもって研修に臨んだことを本当に良かったと思います。私たちと同じように短期間で来ていた日本人学生の多くは「英語を上達させる」ために来ていましたが、一ヶ月で英語を目に見える形で上達させることは非常に困難なことである上に、英語の勉強だけをしにわざわざ一ヶ月だけ外国に行くのはもったいないことだと私は思います。たくさんの人と出会い話をすること、新しい経験や価値観を求めて過ごした一ヶ月間は私に多くのものを与えてくれました。そしてその目標があったからこそ、英語を使う機会も増えたのだと思います。また、シドニーはことばの宝庫で、街中で様々な言語が聞こえてきます。ナショナリティが豊富なため英語も多様で、ネイティヴスピーカーではない人も数多くいます。その中で様々な英語に触れることができたこともシドニーならではの経験でした。様々な新しい経験ができたこの研修に参加したことを心から良かったと思います。

UNSW 研修報告

生活科学部　食物栄養学科
２年　木野綾音

授業内容

授業は毎日 9:00~13:30 で、間に 30 分のお昼休憩がありました。私は Career English というクラスで、主にビジネス英語を学びました。Case Study といって、人を説得したい時、明言するのを避けたい時など、様々な場合を想定しその際に使える表現や話し方などを学びました。授業はスピーキング中心で、ペアやグループで話し合うことが多かったです。週に一度だけライティングの授業があり、そこではビジネスメールを書いてそれを添削してもらいました。プレゼンテーションが３つあり、２つは個人、１つはグループで取り組みました。個人のプレゼンでは最近のニュースを紹介するものとペアである議題についてディベート形式で行うものがありました。グループのプレゼンでは「シークレットシドニー」というタイトルのもとシドニーの隠された観光地をビデオとパンフレットを作って発表しました。毎週金曜日に復習テストがあったため、その週に習ったことを定着させることができました。先生はとても熱心で優しく、面白い授業ばかりでした。

課外活動

授業外の時間は、勉強をするか観光に行くかのどちらかでした。勉強は、教科書に付いている CD を使ってリスニングの練習をしました。その他に復習テストの勉強、新しく知った単語の勉強もしました。観光は、土日も含めて週３～４回行きました。タロンガ動物園、シティ、ボンダイビーチ、マンリービーチ、オペラハウス、ハーバーブリッジ、美術館、植物園、遊園地、ブルーマウンテンズなど、たくさん観光をすることができました。シドニーの観光地はだいたい回れたのではないかと思います。観光は同じ大学の友達と行くことが多かったですが、何回か同じクラスの友達と行くこともありました。勉強が終わって観光の予定もない日は、通学路にある街のカフェに一人で行ったりしました。店員さんとの会話が英語の練習にもなるし、地元の美味しいものを食べられて一石二鳥でした。

生活全般

毎朝７時に起きて、８時のバスに乗って学校に行きました。朝ごはんはシリアル、パン、前日の残り物のどれかを食べました。冷蔵庫にある飲み物はなんでも飲んでよかったので、水、コーラ、オレンジジュースなど好きな飲み物を飲みました。家から徒歩５分のところにビーチがあり、人も少なくとても居心地が良かったので暇なときによく行きました。学校はバスで４０分のところにありました。家からバス停も、バス停から学校もとても近かったので通いやすかったです。写真は私の部屋です。６畳ほどの、とても清潔感のある部屋でした。家に暖房はなく、ベッドに電気ヒーターが付いていたのでそれで温まりました。ホストファミリーは５人いて、マザー、ファザーと子供が３人いました。子供は全員私よりも年上で働いていました。私の他に中国からの留学生が一人いました。人数の多い家族だったので、夕飯の時間はみんなで集まってたくさん話すことができました。夜ご飯は、ホストファミリーがフィリピン人だったこともあり、ライスとおかずというパターンが多かったです。野菜が少なく、肉中心の料理でした。ホストマザーが料理上手で、毎日とても美味しくいただきました。ご飯のあとに一緒にテレビを見ることもありました。洗濯は週に一回自分で、シャワーは一日１５分でした。どちらも私の好きな時にしてよかったです。シドニーでの生活一般の話をすると、バスは時間通りに来ないこともありますが、電車は時間通りに動いています。バスの方が幅広い範囲をカバーしているので、バスを使うことが多かったです。カフェなどのお店は１６～１７時に閉まるのが当たり前でした。オーストラリアでは２２時就寝６時起床といった生活習慣が普通で、日本よりも朝方の生活をする人が多いと感じました。物価は日本よりも少し高いかなという印象でした。スーパーマーケットの商品は、量が多くなればなるほど安くなるのが特徴的です。天気は毎日良くて、雨が降ったのは１回だけでした。冬なので寒く、風が強い日も多かったです。１日の寒暖差が大きく、朝晩の気温は一桁だけれど日中は１５度以上になる日もありました。人々は陽気でリラックスしていて、とても過ごしやすい街でした。絶対にまた訪れたいなと思います。

研修参加者からのアドバイス（ニューサウスウェールズ大学）

1. 出発前に、気を付けたほうがいいこと
   - 大学のプログラムで行く場合、事前に何を自分で準備する必要があるか確認する。
   - パスポートやクレジットカードの発行には時間がかかることもあるので、早めに確認する。
   - お茶大での授業で課題提出やテストがいつあるのか確認しておく。特にレポートは、学校で提出するものも多いので注意する。
   - 機内が結構乾燥していたのでマスクを持って行くと良い。
   - 重ね着できる服を持って行く。

2. 研修先の授業
   - 短期留学だと日本人が多いクラスになることもあるが、日本ではないことも意識して積極的に発言する努力をする。
   - 休み時間に日本人同士などでも、英語で話しかけてみると練習になる。
   - 自分から発言しないといけない。
   - 日本人が多いかもなので教室内では英語で話すようにするなどできるだけ英語で話すようにすると良い。

3. ホームステイ
   - 事前にメールなどで挨拶しておく。
   - 積極的に話しかける。
   - 家以外でも、困ったことがあったらホストファミリーに相談してみる。私の場合は、そうして解決できた上に喜んでもらえた。
   - ルールを守り、礼儀正しく振る舞う。ハウスルールをちゃんと守る。
   - 自分の部屋にこもらずにコミュニュケーションを自分からとる。

4. 食事について
   - オーストラリアには日本料理店も多かったので、日本食が食べたくなっても特に困らないと思う。
   - 全体的に物価は高かったので、スーパーでまとめ買いしたりするのも節

約になり、面白い。

- 外食は基本的に高い。
- 日本食レストランも多くある。

5. 現地の学生・地域の方々との交流について
   - プログラムには含まれなかったので、自分で調べる必要があった。大学のクラブ活動などに参加できた。
   - やっていない人は、Facebook などの SNS アカウントを作っておくと良い。友達との交流だけでなく、クラブ活動などの情報収集にも便利。
   - 授業を受けているだけだと現地の学生との交流はない。サークルなどにコンタクトをとる必要がある。

6. お金について
   - 万が一に備えて多めに持っていると安心できる。現地でも両替はできるため、日本円も持っていると良い。
   - クレジットカードは事前に使えるか確認しておく。
   - クレジットカードが必要。私は店舗によって使えないことがあったので 2 枚持っていると安心。

7. その他
   - ホームステイ先やクラスでは、自分の行動によって「日本人」への印象が決まると感じました。なので、短期留学でも国際交流の場だと意識して行動できると良いと思います。
   - Wi-Fi はステイ先と学校、博物館などで使える。
   - グーグルマップが便利。

TECHNISCHE
UNIVERSITÄT
WIEN
Vienna University of Technology

INNES ~ TU WIEN ~

理学部　情報科学科
２年　飯島緋理

授業内容

１０日間による短期集中授業でBigData、IoT、安全性とセキュリティーについて学んだ。

授業は９：００～１３：００で開始時間は毎日９：００ちょうどだが、終了時間は度々変更があった。早くても遅くても３０分前後しか変わらない。休憩を４時間の間に１～２回、１５分間とってくれる。

授業は全て英語で行われたが、マンフレッド教授が優しい英語で説明してくれた。何度も聞き返したりしてしまい教授を困らせてしまった場面もあったので、英語能力は本当に必要だと実感した。

授業の最初と途中に復習をする時間があり、教授が１人１人当てて単語の意味を聞く、といった形で進んでいった。

課外活動

授業８日目にマンフレッド教授が勤めている会社「Digital Society」に行った。「Digital Society」は IoT 技術を応用した広告会社で、インターネットに繋げられる電子機器があればその画面を広告塔として使用できる「sklera」を開発した。ウィーンの地下鉄のエスカレーターの壁で見ることができる。教授は私たちに sklera のアカウントを永久無料で１つプレゼントしてくれた。（実際使用する契約をすると１ヶ月３００ユーロかかるらしい）

授業９日目に大学の別キャンパスの研究所に行った。そこでは３D プリンターを実際に

見たり、３D プリンターで作ったものを見たり触ったりした。研究所自体は開発途中の新しい地区にあり、建物も新しかった。

生活全般

宿泊場所はユースホステルで調理器具一式やベッドシーツ、部屋は１人１部屋勉強机付きで広くて快適に生活ができた。台所と風呂場は共同スペースであった。ホステルの正面玄関、自分の部屋の玄関はオートロックで、自分の部屋にも鍵をかけられるので安全面では問題なかった。安全ではあるが、ハウスキーパーが週１回で自分の部屋の掃除に来るので荷物はほぼスーツケースに入れてスーツケースにも鍵をかけて出かけていた。ハウスキーパーは掃除をするだけで、ゴミ捨ては自分達で行かなければならなかった。ゴミの分別はなし。洗濯所は共同で１回使用するのに 2.5 ユーロかかるため、友人と共有して使っていた。

徒歩２分ほどで観光名所であるプラーター遊園地があり、徒歩３分ほどで地下鉄 U２もある。ホステルの最寄りから学校の最寄りの駅まで U２一本で約１５分ほどで着くのでアクセスは大変便利であった。ただし学校の最寄り駅から学校まで少し歩くので、ホステルを出発するのは授業開始４５分前ほど。

授業が終わると別の棟に行って学食をとった。学食は毎日変わって２つの料理から１つ選べられたので飽きることはなかった。毎日ソーシャルプログラムという活動があり、参加は強制ではないがなるべく参加するようにした。授業、ソーシャルプログラム以外の時間は全て自由時間であるので観光するには十分時間があった。

ウィーン短期研修報告書

理学部　情報科学科
2 年　礒井葉那

授業内容

授業は平日 9:00~13:00。ただでさえ英語での授業で大変な上に、休憩は間に 15 分ほどが一回のみで、集中し続けるのが大変だった。

テーマが IoT - BigData - Cloud - Security 、対象が（情報系に限らない）学部生ということで、広く浅く知識を入れる講義が中心だった。

講義で使う資料はその時間のはじめに配布されるので、予習していくことはできない。
多い日は 62 枚ものスライドがあり、大変。
先生が授業のはじめや所々で単語の意味確認の質問をしてくるので、復習必須。

１～６日目

DOS 攻撃(サーバに過剰な負荷をかけてサービスを妨害する)とは何かから始まり、IoT の概念や未来での使われ方、BigData, Cloud の概念、公開鍵暗号方式の仕組みからセキュリティの重要性、VaraCrypt というデータの暗号化に使えるソフトウェアの使い方、リスクマネジメント、JIS 規格などの標準化規格についてを学んだ。

７日目

1~6 日目までの先生とは別の人（同僚 or 部下）による、リスクマネジメントについての、より現場視点での講義。

８、９日目

先生の職場を訪問。製品（ソフトウェア）や施設の紹介が中心。

１０日目（最終日）

今までの復習と、IoT の普及が進んだ未来の街、スマートシティの構想についてのお話を聞いた。

課外活動

ソーシャルプログラムと言って、向こうの方々（なんの組織かわからない）

が放課後に市内中心部の散歩・歴史博物館・カフェ・技術博物館・ビール醸造所・音楽館と言ったウィーンの文化に触れる機会を作ってくださった。

Facebook で有志参加の募集がかけられていたが、ほとんど私たちお茶大生のみで、たまに他の留学生 2,3 人が増えることもある程度の規模。

写真は最終日のディナーの様子。

週末はチェコ・ハンガリーを旅行した。チェコで同行者がパスポートと全員分の夜行バス（チェコ→ハンガリーの移動分）のチケットを盗難に遭うトラブルに見舞われたが、お金でなんとかなったので良かった。

生活全般

ウィーンは日が暮れるのが遅く、せっかく来ているし、とつい一日をフルに使って活動していた。普段の日本での暮らしと比べて圧倒的に活動していたため、体力が持たず、二週目あたりから体調を崩してしまった。ウィーンは空気が乾燥していたため、喉が特に辛かった。

向こうではお酒が安くて美味しく、また料理もお酒に合い、美味だった。毎日のようにワインを飲んでいた気がする。楽しかった。

ウィーンは音楽の都、オペラ座や教会コンサートや路上コンサートでは素晴らしい演奏を聴くことができた。また、街の至る所に音楽家の銘板があったり、楽聖たちの住んだ家が博物館になっていたり、中央墓地に埋葬されていたりと、ゆかりの場所を巡って非常に満足した。

写真は市立公園のシュトラウス像（左）と国立オペラ座（右）

ウィーン工科大学留学報告書

理学部　情報科学科
2 年　浦恵里加

授業内容

1 週間目は座学がメインの講義でした。まず初めにこの講義で頻繁に用いる専門用語についての解説があった後に Big Data とはどのような技術を使っているのか等々の説明と Big Data や IoT を活用して実際にどのようなものが使われているのかという説明が行われました。二日目から三日目にかけてはセキュリティー面に関す DDoS attack や RanSomware についての講義を受けました。暗号化に関する講義もあり、公開鍵と秘密鍵を用いた暗号化方法はお茶大でもやっていたのでまた英語での理解が深まりました。二週目はウィーン工科大学から出て、先生の勤務している会社の会議室のようなところで sklera という cloud を利用したサービスの紹介を受けました。skela は写真を cloud にアップしてそこでスライドを作成したり、画像編集を行ったりすることができるだけでなく、端末を繋げることによってどの端末でもそのスライドを見ることができるサービスです。このサービスによって遠隔地でもテレビ電話だけでなくスライドも同時進行で見せられたり、大人数教室での授業でも個人個人の端末でスライドを見ることができたりするなどかなり便利なシステムでありました。また、次の日は少し遠くにあるウィーン工科大学の研究所へ行き、研究施設を見せていただきました。3D プリンターを使ってかなり細かい部品を作っていたり難しい機械の整備をしたりしていました。全てのものがパソコンとつながっており、主にパソコンを使って操作を行っていました。また、誰からも見られないように暗号化する Vera Crypt というアプリを紹介していただきました。最初にパスワードを設定するのですが、それを数字大文字小文字まぜまぜで 24 文字程度にすると絶対に中を見ることができないという仕組みです。日本よりも授業のスピードが早く、一回の授業での情報量が多かったという印象を受けました。かなり優しい英語で説明してくださるのでリスニングさえできれば授業にはついていけると思われます。

課外活動

午後には social program と題されたプログラムが用意されており、毎日様々な場所に連れて行っていただきました。1 日目は学食の紹介をしていただき、その後シェーンブルン宮殿に行きました。シェーンブルン宮殿はかなり大きく、庭にある大きな建物に登ったのですが、往復で 30 分程度かかりました。ヨーロッパ建築を感じられてとても良かったです。二日目は大学から徒歩でウィーンの町並みを散策しました。まずは最も有名なシュテファン大聖堂に行き高級ブティックの立ち並ぶコールマルクトを抜けてホーフブルク宮殿や市庁舎の付近を散歩しました。三日目はヒストリーツアーというアトラクションのような体験

型の室内ツアーに参加しました。遊びながらウィーンの歴史が体感できたのでとてもいい経験となりました。ちなみに日本語のガイドが付いておりとても聞きやすかったです。四日目はコーヒーハウスに連れて行っていただきました。ケーキと飲み物を注文して皆さんで食べたのですが、カフェによってかなり味も違って美味しかったです。8 日目には技術博物館へ行って体験型の展示物を使って楽しみました。 9 日目にはオッタクリンガーというオーストリアで有名なビール工場に見学にいき、そこで生産されているビールを飲みました。そこでハーブの味をつけたプレッツェルもいただきました。10 日目は social program が何も用意されていなかったので、みんなで寮の近くの遊園地に行って安全性がちょっと心配な乗り物に乗りました。11 日目には音楽の家というところへ行き、モーツァルトやベートーベンやシューベルトやハイドンについての展示物を見たり、階段が音階になっているようなところを歩いて見たり、指揮者体験をしたりしました。最終日には夕食を先生と同じく短期留学に来ている人たちと食べました。土日はチェコハンガリーへ弾丸旅行をしました。授業が終わって食事を食べてからすぐにバスでチェコまで向かい、ホテルで一晩過ごした後チェコの首都プラハの街を散策して、夜行列車でハンガリーのブタペストに向かいました。ブタペストでは有名な温泉に入りました。そこでは温泉に入りながらチェスをしているおじさまがたがいてとてもプールに来ているとは思えない感じでした。

生活全般

寮は 2-4 人程度で 1 部屋となっており、キッチンとバスルームとトイレは共用で部屋の中にはベッドと勉強机とクローゼットが用意してありました。留学に行ったメンバーは一緒の部屋になった人もいれば別々の部屋になった人もいました。寮にはいろんな国籍の人が住んでおり、中にはかなりの期間住んでいる人もいました。寮はプラーター駅から徒歩五分程度でプラーター遊園地の目と鼻の先にあります。大学までは 30 分程度で電車もそんなに混んでいるわけではありませんでした。寮から徒歩 2-3 分のところには BILLA というスーパーマーケットと BIPA というドラッグストアがあり平日は 18:00 までやっていたのでそこで買い物をすることができました。日本のスーパーとあまり変わりなく、新鮮な野菜や果物や冷凍食品も売っていました。　ウィーンの街は治安も良く、カフェがありとあらゆるところにあり、とても快適に過ごすことができました。特に毎日メニューが変わる学食がとても美味しかったです。また、オペラやモーツァルトコンサートなどを聞きに行ったりウィーンで発達した音楽を聞くことができたりしたということもとても良い経験となりました。IT 関連の勉強だけでなく、文化や自然を満喫できたのでとてもいい留学でした。ありがとうございました。

ウィーン工科大学短期研修

理学部　情報科学科
２年　折口希実

授業内容

授業は 10 日間あり、8 日間講義を、2 日間は情報系の会社やラボへ行き、実際に最先端の技術に触れ合ったり見学をしたりしました。
講義では IoT に関することを学びました。学習するにあたって必要なことをまず学び、それから IoT の技術だったりそれをかつようするにあたって大切になるリスクマネジメントのことだったりデータを取り扱うときに必要なことだったり、日本と海外の違いのようなことまで学ぶことができました。
会社へ訪れた時はデジタルサイネージという画像や映像などを瞬時に表示できる技術を実際に使ってやってみたり、ラボでは 3D プリンタをみて、その色々な過程を教えてもらいました。
すべての授業が英語だったので、やはり多少わからないことや疑問も生じることはありましたが、先生も親切だったし、一緒に行った仲間と協力してこの講義生活をおえることができました。すべての授業が終了したときはとても充実していたなと思えたし、講義最終日に先生から修了証書みたいなものをもらえたときはとても嬉しかったです。
写真はラボがあるところのものです。
すごくこれからの勉強に意欲も湧いたし、英語への勉強もしなきゃなと思った 2 週間でした。

課外活動

授業が午後の１時に終わるのでそれからの間にソーシャルプログラムというものがありました。初日にはシェーンブルン宮殿へ行き、ハプスブルク家の栄華を実際にみてい感じてきました。翌日はウィーンの中心部へ行き町並みを散策しました。シュテファン寺院やオペラ座、王宮など有名な観光地を見学しました。次の日はウィーンの歴史を学べる施設へ行き、アトラクションなどを通じて栄華だけでなく戦争などの暗黒な面などを学びました。またその次の日は世界無形文化遺産に指定されるほど発達しているウィーンのカフェ文化に触れあえるように老舗のカフェで歴史を学びながらティータイムをしました。翌週へ回ってからは、科学博物館で昔の乗り物から今の乗り物への変遷や楽器の歴史、電力発電の歴史、また新たな科学技術などを見てきました。翌日はウィーンに本社のあるビール会社オタックリンガーへビールの製造する工場を見学し、実際にビールを試飲させてもらいました。また別の日にはミュージックハウスで音楽の歴史やモーツァルトをはじめとする偉大な作曲家たちのことを知ったり、指揮体験をできたりしました。最終日のソーシャルプログラムはピザ専門店でピザをみんなで食べました。
とても有意義な時間をすごすことができました。とても楽しかったです。

生活全般

私たちはホステルで宿泊し、生活していました。ホステルの近くには BILLA というチェーンのようなスーパーやプラーター遊園地というウィーンでは有名な公園がありました。遊園地があるので周辺には出店のようなものもあり、食料調達にはあまり困ることはありませんでした。ホステルの近くには駅が２つあり２本の電車が走っていました。研修期間中に使えるフリーパスをもらっていたので大学には電車で行き、それ以外の課外活動や個人的な観光にもそれを使いました。

シャンプー、トリートメント、洗濯用洗剤などの日用品などはウィーンのドラッグストアやスーパーで購入しました。ひとりでは使えきれないので数人で買い、シェアして使用しました。

気候の面で言うと一応ウィーンは夏の終わりというようにきいていましたがウィーンに到着した当初は８月にもかかわらず、とても冷え込んでいました。上着はもっていましたが、長袖を持っていけばよかったなと少し後悔しました。しかし日が経つにつれてどんどん暖かくなりました。ただ夜や雨が降ってしまうととても冷え込みました。私たちの滞在期間は運が良く、ほとんどの日が快晴で１日だけ雨が降りました。

ウィーンの治安はかなりいいと思いました。人もとても親切でした。

観光はできるだけ後悔しないようにいけるだけ行き、食べたいものもできるだけ食べました。

料理に関してはとてもおいしかったです。なんといってもスイーツはおいしいし、シュニッツェルという子牛のカツの伝統料理がオーストリアにはありますが最高においしかったです。また、ビールやワインなどアルコール類もとてもおいしかったし、その上安かったです。

とりあえずとてもたのしく、充実した２週間でした。あっという間だったし、本当に行ってよかったです。

写真は上からカールス教会、オペラ座、ホテルザッハーのザッハトルテ。

ウィーン工科大学短期研修　報告書

理学部　情報科学科
2 年　高橋佑里子

授業内容

私達が受けた講義は IoT やビックデータ・クラウド・セキュリティに関するものでした。知らない内容・英語での講義と慣れないことばかりで最初はなかなかついていくことができなかったのですが、後半になるにつれて自分のリスニング能力が向上したり知識が身についてきたりしたことでついていけるようになりました。

1 週間目(1 日目~5 日目)はウィーン工科大学での講義がメインでした。マンフレッド教授がスライドを使ったりグループワークを取り入れたりした丁寧で分かりやすい授業をして下さりました。2 週間目(6 日目~10 日目)はデジタルサイネージの技術の体験や工場見学などの体験学習も盛り込まれており、非常に充実していました。

工場見学に行った時の写真→

デジタルサイネージ技術を体験した時の集合写真

最終日の講義の後に教授と生徒 8 人で撮った集合写真　　修了書

課外活動・現地での生活

大学側が用意して下さったソーシャルプログラムに参加したり、自分達で計画を立てたりしてウィーンの様々な名所を観光することができました。私自身は初めてのヨーロッパだったのですが、ウィーンは本当に街並みが綺麗で、治安も良くて素晴らしい街だなと思いました。

現地の料理は普通に美味しかったですが、量が多いなと感じました。友達と分けて丁度いいことが何度かありました。特にソーセージが気に入りました。カフェには何回も行きました。どのケーキも美味しくて毎回大満足でした。ミランジェというミルクたっぷりのコーヒーも気に入りました。さらに、土日を利用してチェコのプラハとハンガリーのブタペストを観光することもでき、観光面でも充実した 2 週間となりました。

ホステルでは、学科の友達と一緒に講義の復習をしたり、集まっておしゃべりしたりなどして過ごしました。正直に言うと、学科の友達とは今までそこまで喋ったことがなかったのですが、お互いに協力し合ったりすることで仲を深められたと思います。

写真は上から

・シェーンブルン宮殿

・シュテファン寺院

・最終日のディナー

です。

写真で載せた所以外にも多くの観光スポットを巡りましたが、抜粋しました。景色が美しくて胸を打たれました。

最終日のディナーでは、美味しい料理をいただいた上に教授や現地で出会った留学生とも交流することができ、非常に濃い時間を過ごすことができました。

以上をもって報告書とさせて頂きます。

ウィーン工科大学　短期留学

理学部　情報科学科
３年　朝岡日向子

授業内容

テーマは「IoT-BigData-Cloud-Security」。車、家電、または家そのものなど、人々の身の回りにあるものが続々とネットワーク化されていく中で、どのようにして利用者の個人情報流出を防ぐことができるかを考えた。

１週目は、課題を話し合うために必要な基礎知識の確認をした。初めて聞く用語や技術が多かったが、１、２年の授業で学習済みの知識でも、英語で定義を答えるとなると難しいことが分かった。

２週目は、前週で学んだ知識に基づく実習が多かった。例えば、VeraCrypt というソフトを使い、実際にファイルを暗号化した。実践することで、仕組みだけ知っているよりも理解が深まった。また、2 週目の内の二日間は、学校の外へ見学に行った。一日は、教諭が経営する会社のオフィスを見学した。もう一日は、郊外にあるウィーン工科大学のラボを見学し、ロボットや 3D プリンターを使い研究をしていると説明を受けた。

１０日間という短い期間ではあったが、非常に多くのことを学ぶことができた。今回の留学で得た知識を、今後の学科での授業や研究に活かしていきたいと思う。

課外活動

8 月 22 日：シェーンブルン宮殿へ行く。かつての皇帝が使っていた部屋などを見学した。
23 日：旧市街を歩く。ウィーンの歴史的建造物を多数見た。
24 日：Time Travel Vienna でウィーンの歴史を学ぶ。
25 日：カフェハウスへ行く。ウィーンのカフェハウスは、ユネスコ無形文化遺産に登録されている。
26 日：ハンガリー・ブダペストに旅行へ行く。
27 日：チェコ・プラハに旅行へ行く。
28 日：ウィーン産業技術博物館へ行く。オーストリアの技術発展の歴史を学んだ。
29 日：オッタクリンガー・ビール醸造所を見学する。
30 日：プラーター公園へ行く。有名な大観覧車から夜景を見た。
31 日：音楽の家へ行く。モーツァルトなど著名な音楽家に関連するものが展示されていた。
9 月 1 日：ベルベデーレ宮殿へ行く。ウィーンの画家、グスタフ・クリムトの名画が多数展示されていた。

生活全般

・宿泊施設

大学から電車で 15 分程度の場所にあるゲストハウスに滞在した。鍵付きの個室が一部屋与えられたが、バス・トイレ・キッチンは他数部屋と共有。家具、食器は備え付け。昼食以外の料理・洗濯・掃除は、全て自分でする必要があった。

・買い物

ゲストハウスから徒歩１０分ほどの駅にあった、大きめのスーパーマーケットが毎日夜遅くまで営業していたため、頻繁に利用した。ヨーロッパは物価が高いとよく言われるが、個人的には日本と大差は無かったように感じる。

・ 食事

毎日の昼食は、授業後に大学の学食でとった。メニューは、オーストリアの家庭料理が多く、また、日替わりだったので飽きることは無かった。夕食は、市内のレストランでウィーンの名物料理を食べることが多かった。値段は、日本の外食と比べると高めだったと思う。

・ 観光

有名な宮殿、寺院、美術館などは、どれも市の中心部から近く、観光しやすかった。学校が街のほぼ中心にあり、ゲストハウスもそれほど遠く無かったのも好条件だった。

・ 治安

スリなどには終始気をつけてはいたが、治安は非常によかったと思う。地元住民も、観光客慣れしている点もあるとは思うが親切で、東洋人だからといって奇異の目で見られたと感じたことは一度も無かった。

・ 交通

鉄道が発達していて、地下鉄と路面電車を使えば主な観光地は全て行くことができた。

・ 気候

留学した当時の８月末頃は、日本と比べると涼しかった。気温の高い日でも、日本より湿気が少ないため、過ごしやすかった。

ウィーンでの２週間を終えて

理学部 情報科学学科
3 年 天野幹子

授業内容

今回の研修では、IoT – BigData – Cloud – Security と題して、情報科学の専門科目の授業を英語で受けました。授業は朝 9 時から始まり、途中 15 分の休憩を一度はさみ、12 時 30 分から 13 時の間には終わる、といった感じでした。2 週間のプログラムだったため、授業日数自体は 10 日と短かったのですが、英語での授業ということもあり、非常に充実した時間を過ごすことができたように思います。内容については情報科学科 2 年後期のコンピュータネットワークで習うような基盤となる話から始まり、ビッグデータや最新の IoT 技術について、セキュリティー、安全性など話が膨らみ、興味深い、そして非常に将来性を感じる授業でした。英語での授業であったことについて特に大変だったと感じたのは、母国語でない言語を集中して聞き続けなければならない、ということです。専門科目の授業を英語で受けるのは初めてだったのですが、英語の授業を英語で受けるのとは違う大変さがありました。この慣れない作業は大変ではありましたが、先生の授業は非常に聞き取りやすく、説明も丁寧で“わかる”体験をできたことは重要な経験になりました。

現地生活

まず交通の便についてです。今回の滞在はプラーターという遊園地のある公園のすぐ近くのホステルでした。ホステルから教室までは 30 分弱で、トラムに乗っている時間は 15 分弱でした。乗り換えもなく、通いやすかったと思います。わたし達は今回の期間通して地下鉄、トラム、バスを自由に乗り降りできるフリーパスを支給されていました。ウィーンは交通の便がよく、それらの交通機関で簡単に目的地に移動することができます。交通機関は安心して利用できる雰囲気がありました。ウィーンの中心部は比較的コンパクトで、シュテファン寺院やオペラ座などの有名な建物やザッハーなどの有名なカフェが集まっており、大学もウィーンの中心部にあるため、徒歩での移動も可能でした。

次に食事についてです。昼食はウィーン工科大学の学食であったため、平日は朝晩のみ各自食事をとる、という感じでした。ウィーン工科大学の学食はメインが 2 種類あり、選ぶことができます。それにスープ、サラダ、ドリンクでワンセットでした。メインは毎日変わりどれもとても美味しかったです。安定して学食を昼食に食べられるということは、生活リズムを作りやすく非常に良かったと思います。朝食は各自スーパーで買ったものを食べていました。ウィーンの有名なスーパーには BILLA があり、ウィーン市内のどこにでもあります。ホステルの近くにも 3 軒あり、活用していました。夜は外で食べるか、友達の部屋に集

まって買ってきたものを食べる、という生活をしていました。

最後に気候についてです。今回は 8 月下旬のプログラムで、日中は非常に暑かったです。暑いですが、湿気はないので日本の暑苦しさとは別物でした。朝晩は比較的冷え込むので、体温調節できるようにもう一枚持ち歩くのが良いかと思います。雨の心配はほとんどなく、わたしが今回の滞在中に雨に降られたのは一度だけでした。また、日の入りの時間について、ウィーンのこの時期の日の入りは 20 時頃なので、放課後に観光をしていて気がついたらもうこんな時間、ということも多々ありました。日の入りが遅いと完全に時間感覚が狂うので、注意が必要そうです。

課外活動

まず INNES のソーシャルプログラムについてです。今回の留学を現地で手厚くサポートしてくださったのは INNES という機関でした。彼らが放課後のプランも考えてくれていて、自分たちでは行かなかったかもしれない施設にも連れて行っていただきました。これらの施設はどれも面白く、新たな知識も得られる良い機会になりました。そのプログラムの前後は完全に自由行動で、またプログラムのない日もあり、自分たちのやりたいこととそのプログラムを両立することは可能でしたし、やりたいことを言えばその兼ね合いを考えて時間を調整してもらえたり、アドバイスももらえました。ただ、とても魅力的で非常に見所が多い街なので、じっくり全てを見るにはもっともっと時間が必要で、とても今回では観光しきれませんでした。今回のプログラムはお茶大のために作られたものだったので、授業で海外の学生と触れ合う機会はありませんでしたが、この INNES のプログラムでは海外の学生が一緒に参加することもあり、新たな友達を作ることができる点でも非常に良かったです。

土日の過ごし方ですが、2 週間という短い期間であったため土日が一回しかなく、今回わたしはショートトリップという形でこの土日を使いました。金曜の授業後に出発し、ハンガリーのブダペスト、チェコのプラハを訪れました。かなりハードなスケジュールでしたが、どの都市もそれぞれに美しく、全く違う雰囲気を持っていて非常に面白かったので、実際に足を運んだことが正解だったと思っています。

プログラムを終えて

今回は 2 週間という時間の中で授業で吸収すること、観光で美しい光景、新たな知識と出会うことがとても多く、長かったような、あっという間だったような、非常に濃い時間を過ごすことができました。ですが、授業についても、ウィーンについても、もう少ししっかり事前知識、考えを持っていればより楽しめたのではないかと後悔しています。ウィーンは治安もよく、明るく輝くような街で、生活、勉強するのに非常に良い環境でした。英語で専門科目を吸収した、という感覚は自信になります。その自信を今後につなげていきたいです。

ウィーン工科大学での短期留学を終えて

理学部　情報科学科
3年　鈴木莉子

授業内容

IoT–BIG DATA–CLOUD–SECURITY の4つのテーマで2週間授業を受けた。最初の3日間はそれぞれの基本的な話から始まった。例えば情報分野で重要なワード、IoT の定義、様々な情報サービス、ハッキングの手法やハッキングから自分のデータを守る方法についてなどである。次の 3 日間は実際にあるプライバシーを守るための機関や規約の内容、情報を暗号化するためのソフトウェアの具体的な使い方や、IoT デバイスを利用したスマートファクトリーについての講義だった。最後の4日間は Alfons 先生から Risk Management について教えて頂いたり、Manfred 先生の職場で Sklea を使って IoT デバイス（モニター）を操作したり、スマートファクトリーの研究機関に行き、スマートファクトリーの実現に向けた開発、実験を行なっている様子を見せて頂いた。

2週間の授業は、ただ Manfred 先生が話し続けるのではなく、重要なワードを繰り返し私たち学生に聞いたり、ペアワークを通して自分たちで調べ、まとめることで理解を深めることができたりと、非常に充実しており、机上だけではなく実際の現場まで足を運ぶ機会もあり大変良かった。

またプログラム終了後には course certificate を頂いた。（右図）

課外活動

お昼ご飯はウィーン工科大学の学食を利用した。日本と違ったことは、ベジタリアン用のメニューが必ず用意されていることである。メニューはウィーンの一般的な料理であるシュニッツェル（左図）やリボン型のパスタ、クレープ生地にミートソースを包んだものなどで、日替わりで楽しめた。やはりシュニッツェルは美味しく、大変気に入った。

INNES が私たちのために Social Program を組んでくださり、ウィーンの観光名所やカフェ、ウィーンの歴史を学べたりウィーンで活躍した音楽家たちについて知ることができたりする施設や産業技術博物館、ビール工場など、数多くの場所に案内してもらい、ウィーンについて見聞を広げることができた。この Social Program には私たちと同時期に短期留学でウィーンに来ていた別のグループの方も参加しており、ロシア人の方やエジプト人の方々とも話す機会があった。プログラムの最終日には Final Dinner を用意してくださり、Manfred 先生も含め、別のグループの方々とも仲良くなることができた。様々な国から来た人たちと接していて面白かったのは、使っている文字の違いである。ロシア語、アラビア語と全く違う文字を使っていて、また日本語も平仮名、カタカナ、漢字と三種類の文字を使い分けているので他の国の方からしたら非常に珍しく、難しく感じるのだとわかった。そこで、他の国の方々の名前の音から平仮名とカタカナを当て、みんなにプレゼントしてあげた。私の名前もロシア語、アラビア語で書いてもらった。(右図)やはり音から自国の文字に当てていて、その点は私たちの日本語と同じだと知った。

生活全般

2 週間のウィーン滞在中、隣国のハンガリーやチェコにも訪れたが、やはりウィーンの治安が一番良いと感じた。街も綺麗で、交通網も発達していた。次に良かったのはハンガリーのブダペストである。夜の外出は怖かったが、夜景が綺麗で、何より町の人が「May I help you?」と話しかけてくれたのが一番嬉しかった。

レストランやカフェでのチップ制は、数をこなすうちに慣れてきた。ハンガリーの場合はすでにサービス料として代金に含まれており明瞭だった。どの国も料理は美味しく、非常に満足だった。ウィーンのザッハトルテとコーヒーメランジェは格別だった。(左図)

2 週間で様々な観光地を訪れたが、行っていない場所がまだまだあり、またいつか来てみたいと思える素敵な町だった。

研修参加者からのアドバイス(ウィーン工科大学)

1. 出発前に、気を付けたほうがいいこと
   - 情報科学の予習をしっかりとしていくこと。
   - 初めていく国など、気温などがわからないと思います。ガイドブックやネットで気温を調べながら、脱ぎ着できるような調整できる服を持っていくのが良いかと思います。
   - 今回ウィーンは朝晩と日中の気温差が大きく、上着が必須でした。
   - クレジットカードやデビットカードの海外利用限度額を確認すること。海外での限度額を 0 円にしていたため、口座にお金があっても使用することができなかった。カード会社に電話したり、各サイトにアクセスしたりすれば、簡単に限度額を変更できる。
   - クレジットカードやデビットカードでキャッシュの利用ができず、大変焦った。
   - セキュリティポーチを用意した方が安全。

2. 研修先の授業
   - ある程度英語能力がある方がいい。
   - 質問を積極的にするべき。
   - 今回のプログラムは全て英語の授業でしたが、先生は非常にわかりやすい英語で教えてくださいました。
   - 英語に訛りもなく、聞き取りやすかったです。
   - 専門科目を英語で勉強するということについては、かなり集中力はいるので大変ではありましたが、理解を深める良い時間になり、チャレンジする価値があると思いました。
   - 最初は英語が聞き取れず、不安になるが、徐々に耳が慣れてくるので、過剰に心配しないこと。
   - 先生と雑談すると距離が縮まり、授業も楽しくなる。私たちの場合、先生が授業中の例で使用した写真が犬だった。「それは先生の犬？」「なんて犬種？」など簡単な質問を投げかければ語ってくれる。

3. ホームステイや寮

- ホームシックにならないように、寂しければ友達と必ず一緒にいるようにした。
- 今回はホステルでした。比較的学生が多いようでしたが、家族で住んでいる人もいました。皆さん親切で、鍵の開け方がわからない時など親切に教えてくれました。勇気がいりますが、コミュニケーションの経験としてわからないことは聞く、ということも大切かと思います。
- 部屋での生活で欠かせないのがスリッパです。絶対に持っていくことをおすすめします。
- 一人部屋と聞いていたが、1 週間後にルームメイトが引っ越してきたので、2 人部屋だった。他国の人と話せる、ラッキーと思えば非常に楽しい。
- ガラス張りのシャワールームに戸惑ったが、住めば都。
- コンロや電子レンジなど、日本とは使い方が違うものもあるので、ネットなどで取扱説明書を検索してみる。

4. 食事について
- 美味しいものばかり！学食は 2 種類のうちからひとつを選ぶ形式。カフェもたくさんあるので優雅に過ごせる。
- 朝はスーパーで買ったシリアルやパンなど、昼は学食、夜は外食という感じで生活していました。
- 学食は日替わりで、メインを 2 種類から選ぶことができ、それにサラダ、スープ、ドリンクがついてワンプレートでした。おいしく、しっかりお腹にたまる、バランスの良い昼食で、生活のリズムを作る上で非常に良かったと思います。
- ウィーンはどこの食事も美味しいので、積極的に現地の味を楽しむのがいいかと思います。
- 現地の食べ物を積極的に食べると、日本との違いがわかりおもしろい。
- 量が多いので、友達とシェアすると丁度いいし、節約にもなる。
- 困ったらマクドナルドに行くといい。（日本にはないメニューもある）
- チップは食事金額の 1 割程度支払った。
- ハンガリーはチップ代（サービス料）込み（レシートを確認するとすでに合計金額に含まれている）なので払いすぎに注意。

5. 現地の学生・地域の方々との交流について

- 現地の人々はだいたい英語が通じて、しかもとても優しいので、道に迷っても何も問題はなかった。
- 現地の学生との交流はありませんでした。ですが、同じ innes のプログラムに参加している学生とは少し交流を持つことができ、最後のディナーでは各国の言葉を教えあったりして楽しむことが出来ました。その後 SNS を交換して会話したりする機会も持てました。なかなか自分から話しかけるのは難しいですが、実際に話してみると楽しく会話することができたので、恐れず話しかけることが必要かと思います。
- 大学内を歩いていると、たまに現地の学生が話しかけてくれる。
- オススメの場所や美味しいレストランについて聞いてみると、いろいろ教えてくれる。
- 海外の人は日本のアニメや小説について詳しいので、ある程度知っておくと話が盛り上がる。
- 日本について何があるか、何がオススメか説明できるようにすると会話が弾む。
- 何を教えてくれているのかわからなくなったら、スマホで写真を見せてといえばわかりやすい。

6. お金について

- 大学の立地がウィーンの中心であるため、両替所はたくさんあり困らない。
- 小さな買い物もクレジットカードですることができ、クレジットカード社会であると感じました。
- 現金は 10000 円分をユーロに変えて持っていきましたが、下ろした分も合わせて日本円で 20000 円未満で現金の使用を抑える形で、あとはカードで過ごしました。
- クレジットカードの管理には気を配らなければなりませんが、現金を持ち歩かなくていい点ではおすすめです。
- 今回のプログラムではお昼の学食代がプログラムに含まれているのが良かったと思います。

- 300 ユーロ(日本円で 4 万円ほど)を現金で持って行った。
- 1 日 20 ユーロ、予備で 20 ユーロの計 40 ユーロ常に持ち歩いた。(主に食事代や高すぎないお土産などを買うのに使った)

7. その他

- 日本での授業の予習復習を完璧にした状態でウィーンでの研修にむかってください。
- 2,3 日時間があれば是非ショートトリップに出かけるといいと思います。自分が生活している場所とはまた違った雰囲気を楽しめる良い機会ですし、非常に充実した時間を過ごすことができます。
- トイレットペーパーは 1 週間で 1 ロール使用した。
- シャンプーや洗剤などは日本から持参した。
- 自分の考えをうまく話せなくても、聞きたいことを聞ければコミュニケーションが取れる。いろんな場面を想定していくつか質問項目を考えておくといい。

SOAS
University of London

SOAS での経験とロンドンでの生活

文教育学部　人文科学科
１年　池水香有子

私は大学に入学してこの短期研修のプログラムがあると知り、高校のころから漠然とイギリスの大学で勉強してみたいという思いがあったためこの夏に行こうと決めました。そのため時間があまりなかったうえに出発前からコースの変更が必要になるトラブルもあり、不安も多く抱えたまま出発しました。しかしこの留学で多くの経験を得ることができ、思い切って参加を決めて良かったと思っています。また、これまで私はほとんど海外経験がなかったため滞在の最初は日本との違いに驚いたり戸惑ったりしてしまいましたが、自分で大学の手配をして一人で海外に行くという経験は私を成長させたと思います。

授業内容

私は International Relations というクラスを選択しました。この授業では英語を学ぶというより専門的な内容を英語で学んでいくというものでした。このクラスでは２人の先生がいて一人は国際関係学の専門の先生、もう一人は英語を母国語としない私たち生徒の理解をサポートする英語の先生でした。

またクラスの進み方としてはプレビュー→レクチャー→レビュー→ディスカッション→セミナーという流れが１セットとしてこのセットが週に２つ進んでいきます。さらに最後の授業ではグループでプレゼンテーションも行いました。プレビューでは英語の先生がレクチャーで話される内容のキーワードの定義についてクイズ形式で教えてくださりレビューではレクチャーの内容の復習をしっかりと行ってくださいました。そのためレクチャーの内容を理解しやすくなり、そのレクチャーの発展であるディスカッションやセミナーも参加しやすくなったと思います。しかしこのようなサポートがあっても慣れるまで、日本では体験したことの少ない授業の形式に戸惑い、授業の内容を理解するのに精一杯という状態でした。なぜならレクチャー以外のほとんどすべてのクラスでペアやグループでのディスカッションをする時間があり、クラス全体でも意見を求められたからです。私はスピーキング力に自信がなく自分の意見をまとめることにも時間がかかってしまうので英語で自分から意見を話すことが難しい中、ほかのクラスメイトはすぐに自分から積極的に話しているように感じ最初はとてもつらかったです。しかし、英語の先生のサポートや緊張感をもって授業を受けることでだんだんと授業もしっかり理解できるようになり、自分から発言もできるようになりました。また、授業ではリアルタイムの国際問題を取り扱ったため日本の視点からではない授業や、他の国のクラスメイトとディスカッションをする機会はとても興味深く良い経験になったと思います。

課外活動

私が参加した８月後半からのブロック３は日本人がとても多かったです。例えば私のクラスは 14 人中９人が日本人でした。そのため、ほかの国の生徒とは welcome party や city walk という SOAS
が主催しているイベントに参加して会話したり、同じキッチンを共有しているフラットメイトとキッチンで一緒に夕食を食べたりして友達になりました。また、週末にはロンドンの中心を離れて小旅行に行ったりアフタヌーンティーやこの写真のようなサンデーローストといったイギリスならではの食べ物を食べに行ったりと、とても楽しむことができました。また、SOAS はとてもよい立地にあるので徒歩でもビックベンやピカデリーサーカスなど観光名所にも行くことができ、授業とのよいオンオフになりました。

生活全般

私は SOAS の寮に滞在したのですが特に大きな問題はなく生活することができました。ただ、３週間１度も清掃が入らなかったのでシャワーの排水口が詰まってしまったり、トイレットペーパーが切れてしまったりしました。自分で何とかできることは自分で行いましたが３週間以上滞在するのであれば受付の人に話したほうが良かったかもしれないです。また食べ物についてイギリスはおいしくないとよく聞きますが私が食べたほとんどのものはおいしかったです。ですが、ロンドンは物価が高いのでお昼にはサンドイッチのようなものを持って行って食べていました。木曜日のお昼はファーマーズマーケットを大学の近くで行っているのでそこでハンバーガーなどを買って食べました。ファーマーズマーケットのような日本でいう屋台は寮の近くのキングスクロス駅でも行われていてそこでも美味しいそうなものが多く売られていました。しかし、屋台や大学内のカフェでは現金しか使えないことが多く、私の場合はミュージカルのチケットなど少し高額なものを割り勘で払う場面があったのでいくら海外はカードが主流といってもある程度の現金は必要だったと思いました。ロンドンに滞在している間は慣れない海外での生活にささいなことでどうすればいいのか迷ったり時間がかかったりすることも多くありましたが、慣れればスムーズにできるようになりすべてが良い経験になったと思います。

SOAS の三週間

理学部　化学科
3 年 村田茉子

授業内容

私は、当初「English Language Skills 3」を申し込んでいましたが、人数が少ないとのことで「Intermediate Reading & Writing 2」に変更しました。「ELS 3」は Reading, Writing, Listening と Speaking を満遍なくやるとのことでしたが、「IRW 2」はその名の通り Reading と Writing が中心でした。午前中に Writing の授業があり、アカデミックなパラグラフの書き方を学び、文法の問題を解きました。宿題は 150～200 字のパラグラフや文法問題などが毎日課されました。午後の授業は Reading で、ざっくりと読む練習や精読をバランスよく行いました。とは言っても授業の初めには先生やクラスメイトと、昨日何をしたのかと言った話や、日本とイギリスの文化の違い、アメリカ英語とイギリス英語の違いなどを話したので、Listening や Speaking の練習にもなりました。実は、受講者がもともと日本人 3 人とイタリア人 1 人で、さらには途中からイタリア人の学生が SOAS のプレコース(?) に移動してしまったので、最終的には全員日本人となってしまいました。しかしながら授業中に日本語を話すことは当然ないですし、授業だけでなく寮のフラットメイトとの会話も英語なので問題はなかったです。高校時代に積み上げた文法や語彙は、大学の授業をただ受けているだけでは全て忘れてしまうので、自分で勉強する必要があります。しかし、SOAS の授業では、コミュニケーション、アカデミックライティング、文法なども全て満遍なくできるのでとても有意義でした。

課外活動

SOAS の場合、どのコースを選ぶかでどれだけ遊びが充実できるか変わってくると思います。英語のコースは、基本的に 10:00～15:00 の間が授業で、宿題は毎日ありました。一方で、subject コース(英語でアートや経済、社会などを学ぶコースのこと)は 16 時まで授業があったり、9 時から授業が始まったり、空きコマがある代わりに 18 時まで授業が続く日もあったようです。また、プレゼンのあるコースは、授業が終わってから準備をしていたりしました。私は、留学といえどもせっかくの機会でしたので、毎日新しいところに出かけることを心掛けていました。ロンドンは有名な絵のある美術館や博物館でも無料のところが多く、写真も撮影できるので、お気に入りの作品と写真を撮って思い出に残すのも楽しいです。また、土日は郊外に行くのもオススメです。交通費はかかりますが、グリニッジの公園はとても広大で、美しく、のんびりできました。オックスフォードの街並みもロンドンの中心部とは違った良さがあり歩いているだけで楽しかったです。そして、1 番オススメしたい

のはミュージカルに行ってみることです。少々値は張りますが、歌や演奏だけでなく、舞台セットなど、様々なところで感動すると思います。

生活全般

寒いです。薄手のカーディガンでは太刀打ちできません。寒くて、SOAS のトレーナーを買いました。最高気温が 15 度のときもあるので、本気のブルゾン二着ぐらいはあると良いと思います。そしてお風呂が不便です。シャワーが固定されていて、脚を洗うのが大変です。私は 100 円ショップで風呂桶を購入し、持って行ったのでなんとかなりました。風呂桶の持ち込みを強くオススメします。また、布巾もエコで良いと思いますが、洗うのが面倒な場合、キッチンペーパーで拭くのもオススメです。1 番衛生的だと思います。日本が恋しくなって日本の曲を YouTube で見たくなる時もあるかもしれませんが、イギリスには対応していないものもあるので注意が必要です。ロンドンはクレジットカード文化なので、二枚くらい持って行くと良いかもしれませんが、友達と割り勘するときに現金がないと厳しいので、いくらか現金も用意しておくと良いです。また、SOAS のカフェテリアはいくら以上からクレジットカードが使えるというようなシステムだったと思うのでそういう意味でも現金は必須です。私が SOAS の申し込みをした時期は、ロンドンでテロが多発しており、生きて帰れるのか不安になりましたが、実際に行ってみて、東京と変わらない日常のようなものを感じられました。むしろ、街で出会った人は本当に親切な人ばかりで、今まで抱いていた海外への怖さは減り、ロンドンが好きになりました。勿論、軽犯罪やテロに巻き込まれないためにもある程度の緊張感は必要ですが、それ以上に人との繋がりを感じられると思います。

おまけ

留学の申し込みはなるべく早くやると良いと思います。寮の予約がいつまでたっても完了せず(出発の 1 週間前までメールが来ませんでした)なんども催促のメールをしたりしました。そのほかにもパスポートの準備など、お茶大のテスト期間などに被らないように計画立てて準備することを強くオススメします。

研修参加者からのアドバイス（ロンドン大学 SOAS）

1. 出発前に、気を付けたほうがいいこと
   - ビザの申請に必要な書類の準備はできるだけ早くやる。
   - SOAS からメールで送られてくる授業のために読まなければいけない参考文献は読んでおく。
   - SOAS とのやり取りで気になることがあれば早めにメールで伝える。

2. 研修先の授業
   - 国際関係学のクラスはディスカッションが本当に多い。
   - 国際情勢についてニュースなどで知識を増やしておいたほうが良い。
   - クラスによって人数が異なる。(3 人のクラスから 15 人くらいまで)
   - たくさんの資料を読んだので電子辞書があると良い。
   - subject course でも予習復習をしっかりすれば英語に自信がなくてもなんとかついていけるので興味がある授業があれば選んでもいいと思う。

3. 寮
   - お皿やコップが元からある部屋とない部屋があったのでできれば持っていくと良い。
   - 部屋の壁が薄いので音量の大きい話し声や音楽が聞こえてしまう。
   - 洗濯機はクレジットカードをスマホのアプリで登録して使うが手洗いでもなんとかなる。
   - キッチンには冷凍庫、冷蔵庫、オーブン、レンジ、ポット、ガスコンロ、フライパンなどがあった。

4. 食事について
   - 寮に食事はついていないので自分で準備する。
   - ５人で共用のキッチンがあるのでフライパンや鍋を買って料理することができる。
   - レンジで温めて手軽に夕食として食べられるものもスーパーに多くある。
   - パブなどで外食する機会も多かった。

- イギリスはタイ米がほとんどで、日本のお米はなかなかないため電子レンジで食べられるご飯を少し日本から持っていくといいかもしれない。
- お昼は大学の前でフリーフードを配っている人がいるのでそれも食べられるが寮からサンドイッチ風なものをもっていって食べていた。
- 毎週木曜日にはファーマーズマーケットを大学で行っているのでおいしいものが食べられる。

5. 現地の学生・地域の方々との交流について
   - 留学生といる機会が多いので現地の学生と交流する機会はほとんどなかった。
   - 地域の方々とは観光している時にお店などで話しかけたり話しかけられたりすることはあった。
6. お金について
   - クレジットカードを使うことになるので2枚くらい持っていたほうが良い。
   - 大学のカフェテリアでは現金しか使えないなど現金のみの場所もあり、割り勘する機会も多いので現金も必要。
   - ロンドンは物価が高いので使いすぎに注意して何を買ったのかメモしておくとよい。
7. その他
   - ブロック3の期間は日本の大学の夏休みなので日本人が多かった。
   - ほかの国の人とは同じフラットやクラスの人と仲良くなる機会はある。

UNIVERSITÉ DE **STRASBOURG**

ストラスブール大学語学研修

文教育学部　言語文化学科
２年　岩澤ひかる

授業内容

私は、ストラスブール大学の IIEF という機関が開催するフランス語学習者のためのサマーコースに３週間参加してきました。初日は個人のフランス語のレベルを見るためのテストを受け、その結果をもとに生徒は３つのクラスに振り分けられました。私は、真ん中のクラスに振り分けられ、早速その日からフランス語によるフランス語の授業が始まりました。しかし早速大きな壁に直面。先生の言っていることが聞き取れない！そもそも質問されても、何を質問されているか分からず答えられない！最初の３日は本当に悪夢のようで、日本に帰りたい願望が強くなったあまり帰国しようとする夢を見るほど。一つ下のクラスに移動することもできましたが、そのうち色々な友達も出来て少し楽しくなってきたこと、これまで 1 年半フランス語を勉強してきたということもあり、意地でもここで頑張ってやると決心しました。コースの前半の授業ではフランスにまつわる歴史や地理、料理、文化など様々なトピックについて、プリントやスクリーンを使用しながら、勉強することが多かったです。ただボキャブラリーや細かい文法知識を増やすだけではなく、軽いディスカッションのようなことをしたり、パソコンで興味のあることについて調べてプレゼンをしたりしました。コースの後半になると、それらに加えて英語で言う tongue twister のようなものをして、発音の矯正をしたり、前回より発展的なプレゼンを行ったりすることが多くなりました。プログラムの３週間目に入ると、周りも認めるような変化がありました。第一に、今まで半分程度しか理解できなかった先生の話が９割程度まで完全に理解できるようになったこと。第二に、発音とともにオーラルコミュニケーションが上達したこと。３週間目に２回目のプレゼンテーションをしたのですが、そこで先生に見違えるように変わったねとお褒めの言葉をいただいて本当に嬉しかったです。

課外活動

IIEF のアクティビティは豊富に設けられていて、課外活動もかなり充実していいました。私は、それほど多く参加していた方ではないですが、ウェルカムパーティや市役所に訪れたり、後半の方では、ピクニックや公園でのスポーツを楽しんだりしました。アクティビティの一つに、アルザスの名物料理であるタルトフランベをレストランで食べるというものがあったのですが、ちょうどその日は私が二十歳になったばかりで、そのことを知った皆が知らないうちに店員さんにキャンドルがのったタルトフランベを出してもらい、フランス語のバースデーソングを歌ってお祝いしてくれました。海外で知り合ってまだ数週間も経たない人たちに囲まれた中、こんなにお祝いしてもらったことは初めてで照れ臭かったのですが、皆の温かい人柄に触れることができ一生忘れられない誕生日になりました。IIEF のアクティビティ以外では、学校で仲良くなった友達とショッピングやストラスブールの街

を散策したり、休日には少し遠出をして、友達の知り合いのフランス人の子にいろんな場所を案内してもらったりしました。例えば、仲良くなった友達が祝日にフランス人の友達とショッピングに行くから一緒に来ない？と誘ってもらい、一緒に行きました。それまでの週末は、まだ課題のレポートが残っていたためホテルに缶詰状態だった私は、誘いに飛びつきました。フランス人の彼女は、日本で日本語を勉強していたことがあり、時々日本語を交えたりしましたが、会話は基本的にフランス語。今まで覚えたフランス語を頭の中で必死に思い出し、組み立てながら話しました。驚くことに全く苦には感じられず、むしろフランス語を話して伝えることが楽しいと感じてきたのです。それまで授業中に発言することに億劫になっていた私にとって大きな変化でした。

生活全般

私は、大学から徒歩 30 分の所にある Cap Europe というホテルに滞在していました。部屋には、冷蔵庫とキッチン、備え付けの食器が用意されていました。食事は、イル川沿いにあるスーパーでパンや野菜など食料を買って、簡単にできるものを作って食べたりしました。ホテルなので当然なのかもしれませんが、宿泊料もそれほど高くなく、十分に快適に過ごすことができました。

たった 3 週間ではありましたが、短期留学に行って自分の人生において本当に大切なことに気づくことができました。得てきたことはここで書ききれないほど沢山あるので、そのうちの一つだけ書くことにします。実は、ストラスブールに行くと決めてからフランス語の勉強を頑張ろうと意気込んでいたのですが、挫折してしまい、渡航直前においてはモチベーションが過去最低で、フランス語は私には向いてなかったのではないかと思っていました。しかし、今回の留学を通して、語学に向き不向きというものは存在していなくて、ただ言語をどのように習得していくかで、効果が出やすかったり、出にくかったりするのだということを実感しました。振り返ってみると、今までの私はひたすら頭だけで学習しようとしていたのだなと思います。フランス語しか聞こえてこないような環境に自らを置き、五感すべてを使って学習することこそ、真の言語習得なのかもしれないと思いました。

ストラスブール大学短期研修を終えて

生活科学部　人間環境科学科
２年　大河内咲希

授業内容

初日にクラス分けのテストが行われます。リスニングとライティングのテストでした。私は１番下のクラスで学びました。初回の授業では自己紹介の表現の仕方から始まりました。だんだんと文法の詳しいことを教わっていきました。先生はフランス語で説明をするので授業についていくのが大変でした。文法を習うとそれを用いた対話をペアになって考え、発表するといった実践的なものもありました。日本にいたときにフランス語の授業ではあまり発音や会話の勉強はしていなかったので、とても勉強になりました。習ったことをプリントで確認し問題を解くという形式だったので理解が深まりやすかったです。日常的に毎日フランス語に触れられる環境だったので先生や街の人が言っていることが全部は分からなくても聞き取れる単語が増えて、こんなことを言っているんだろうなと予測できるようになれたので、少しずつ身についていると感じて嬉しかったです。私は１年生の時にフランス語の授業を取っていただけなので圧倒的に単語力が足りず、日常会話程度は話せるようにしてから研修に参加すべきだったと反省しました。

課外活動

主に火曜日と木曜日に授業外にいろいろ貴重なアクティビティーに参加することができました。ノートルダム大聖堂の博物館の見学、地元のレストランでの名産物の食事など様々なものがありました。特に印象に残っているのは、遊覧船でストラスブールの街を一周したことです。一つの街でもエリアによって少しずつ歴史が違ったり、建物が違ったり、大学で建築を専攻しているのでとても興味深かったです。船から見る景色はとてもきれいでとても良い思い出です。

休日の過ごし方

始めの週の土曜日は先輩と一緒にコルマールとリクヴィルという小さな村に行きました。カラフルな建物が建ち並んでいてとてもかわいい町並みでした。電車とバスの切符の買い方や乗り方など日本と違って戸惑いましたが、先輩のおかげもあってとてもいい勉強になりました。2 週目の土曜日はパリに行きました。この研修に参加したきっかけの一つがフランスの建築物を見学するというのも目標だったので、いい刺激を得ることが出来ました。勉強はもちろんですが、何度も行ける場所ではないのでたくさんいろんな土地を観て刺激を得るのも大

切だと思います。

生活全般

私は過去の研修に参加された先輩たちの宿泊先を参考にさせてもらい、amitel というところに滞在しました。Wi-fi もスムーズに利用でき、部屋に冷蔵庫もあったので生活で不自由に思ったことはあまりなかったです。ただ、土日は受付が開いていないので平日にチェックインすることをおすすめします。また、15,16 日まではフランスの祝日に合わせて食堂も営業していないです。ですが、近くにスーパーもパン屋もあるので街をいろいろと歩けて楽しかったです。街の人やお店の人も優しくて買い物でも困ることはほとんどなかったです。日本語を少し話してくれたり、発音を教えてくれたりといろいろ交流できて良かったです。フランスは治安が悪いと聞いてびくびくしていましが、ストラスブールに街は比較的安全だと思います。小さなお店でもクレジットカードが使える所が多かったです。

最後に

大学生のうちに海外で滞在してみたいという思いが一番強くあって、この研修に参加しました。フランス語は本当に初心者で先生にも友達にも迷惑をかけっぱなしでしたが、一人で海外に行って見知らぬ人ばかりの環境で過ごすという経験は精神的にも大きく成長できました。3 週間は本当にあっという間で毎日が充実していました。今まであまり挑戦をしないことが多かったので、今回の研修は私にとって大きな一歩となりました。これで終わりではなく、また勉強も挑戦も続けていけたらと思います。

ストラスブール大学フランス語研修を終えて

文教育学部　人文科学科
2 年　若命祐佳子

授業内容

授業前にプレースメントテストを受け、その結果によってクラス分けがされる（ただし、先生に相談すればクラスを変えてもらうこともできた）。

私のクラスでは、先生の用意したプリントや教材などを使用して、簡単なフランス語の文法や単語などを学んだ。

課外活動

希望者は、授業終了後、用意されているプログラムに自由に参加することができた。街の美術館へ行ったり、EU の施設を見学したり、レストランで地域の有名な食べ物を食べるなどのさまざまなプログラムがあり、自分の興味に合わせて選ぶことができる。

写真は、課外活動のさい訪れた市庁舎である。

生活全般

寮の近くにはスーパーや薬局があり、少し歩けばパン屋やレストランなどがあるため、生活に不便に感じることはあまりなかったように思う。夜遅くまで外が明るく、治安も、周りに気をつけていれば、物騒だと感じることはほとんどなかった。

有名なカテドラルのある場所まで歩いて行くことができたり、トラムで街の中心まで出て買い物をすることもできた。トラムを乗り継いで中心駅まで行けばたくさんの鉄道が出ており、週末にパリやアルザス地方・ドイツなどに旅行をすることも可能である。

写真は、休日訪れたミュンヘンで撮影した。

ストラスブール大学夏季短期研修

大学院人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻
博士前期課程 1 年　吉田藍

授業内容

授業は初日の試験（聴解と作文）により 3 クラスに分かれて行われます。初歩のクラスでは自己紹介に始まり、基本的な表現をじっくり学びました。授業中の使用言語は基本的にフランス語のみですが、先生はこちらが理解できるまで何度も、ゆっくり発音する、単語を変える、身振りや画像を使うなど色々な方法で説明してくださり、問題なくついていくことができました。中級のクラスは格段に難しいようでしたが、希望すればクラスを変更することもできます。読み書きはある程度できるもののほとんど聞き取れないという状態で行きましたが、授業を通してフランス語の音に馴染み、聴く、話すことへの苦手意識がかなり軽減されました。学生は各国から多様な年代、多様な職業の人々が集まっており、授業の中でいろいろな話を聞くことができました。（左上：教室風景。）

課外活動

プログラムでは放課後や週末に様々な課外活動が用意されています。大学や市庁舎での歓迎パーティー、各博物館や欧州議会の見学、週末にはオベルネやオー・クニクスブール城など少し足を延ばした観光ができます。アルザス料理のタルト・フランベを楽しむという日もありました。参加は任意で、有料のもの等いくつかは初日に申し込みます。自分の希望や体力と相談しながら選択し、用意されたものの他にも好きな場所を観光したり、勉強を進めたりなど充実した時間を過ごしました。ストラスブール大聖堂は建築も素晴らしいですし、この時期毎晩行われているプロジェクションマッピングも圧巻です。ストラスブールは街並みが美しいだけでなく、規模や交通、見どころの位置関係、そして治安の面でも、とても歩きやすい街です。週末には電車とバスを乗り継ぎ、コルマール、リクヴィルなどワイン街道沿いの美しい街を訪れました。ドイツとの国境もトラムで 15 分ほどと非常に近く、ライン川にかかる橋を渡って国境を越え、島国にはない経験をしました。また今回の渡仏ではプログラムへの参加と同時に、研究で必要な史料を見るという個人的に大きな目的があり、ストラスブールの図書館のみが所有している重要な史料を

しっかり調査できたという点でも非常に有意義でした。（前頁：ストラスブール大聖堂内部、左下：リクヴィル風景、右下：欧州議会。）

生活全般

3 週間宿泊した学生寮は大学まで徒歩 15 分ほど、ストラスブール駅まではトラムで約 10 分の場所で、大聖堂のすぐそばでした。月曜日は 13 時半から、火～金曜日は 9 時から、毎日 4 時間の授業で、その前後に買い物や観光、勉強など盛りだくさんに活動をしても、海外にいることで雑事が入らず、日本にいるときとは比べ物にならない程ゆったりと余裕を持って生活できました。食事の面では、キッチンの設備が冷蔵庫のみで、また寮の食堂、大学の学食ともに夏休みで最後の数日しか利用できませんでしたが、スーパーでパンやチーズ、果物などを調達し、近隣のパン店、ケバブ店なども利用して三食欠かすことなく生活できました。入浴設備の使い勝手が悪く初日は戸惑いましたが、人間慣れるものです。洗濯機の使用はお金がかかったため、洗濯は手洗いで済ませました。

方向音痴が海外に一人で大丈夫かと不安でしたが、事前にしっかり地図を予習して、オフラインマップなども活用すれば、日本とは異なりどの道路にも必ず名前がついていますし迷うことはありません。公共交通機関も大変利用しやすいです。切符の購入方法など非常に不安でしたが、券売機で簡単に購入できるので、窓口でフランス語が通じずに悪戦苦闘という事態は全く起きませんでした。SNCF の各列車、ストラスブール市内のトラム共にネット上で日本と同様に乗り換え検索ができますし、行先表示などもわかりやすく、トラムはあまりに使いやすいので予想外に大いに利用してしまいました。様々な面で、最初の数日は初めて一人で海外にいる不安もあり落ち着きませんでしたが、1 週目の後半には徐々に慣れ、楽しく生活できるようになりました。（右上：トラムの切符刻印機。）

研修参加者からのアドバイス(ストラスブール大学)

1. 出発前に、気を付けたほうがいいこと
   - 現地に着いた時に少しでも迷わないように地図をコピーしたおくことや、駅や電車の乗り方をガイドマップを読んで下調べしておくことがとても大事だと思います。

2. 研修先の授業
   - 1 番下のレベルのクラスでもある程度のフランス語の知識が必要です。授業はすべてフランス語で行われるので、出発前にフランス語のリスニングをしたり、単語量を増やしておくとよいと思います。

3. 寮
   - amitel という寮は先輩からトイレットペーパーは無くなったらスーパーで買っていたと聞きましたが、寮母さんに言えば補充してくださいました。洗濯は手洗いで済ませられますが、かけるところがないので、ハンガーや軽い干し台を持って行くと便利だと思います。

4. 食事について
   - 食堂が 2 週間ほどは営業していなかったので、スーパーで惣菜を買ったり、パン屋で買ったりして食べていました。冷蔵庫は部屋にあるので、生物でも大丈夫でした。電子レンジが部屋にはないので、温かい物がしばらく食べれなかったのはつらかったです。

5. 現地の学生・地域の方々との交流について
   - 日本人の学生もたくさんいるので、異国の地すぎるということはありませんでした。クラスには様々な世代、国籍の方もいて授業中のグループワークや授業外でのアクティビティで交流する機会はたくさんありました。

6. お金について
   - 週末に観光をしたので、その分も含めて 8～10 万ほど使ったとおもいま

す。スーパーやパン屋などの小さなお店でもクレジットカードが使えるので、あまり現金は使いませんでしたが、もしものために 50 ユーロほど持っていきました。

7. その他

- フランス語は初心者で全くといっていいほど話せませんでしたが、先生も生徒さんも優しくて思い切って参加して良かったと思うので、言語に自信がなくてもぜひ参加して欲しいです。

universitätbonn

ドイツ ボン大学　サマーコース

生活科学部　人間生活学科
２年　大竹遥

授業内容

ドイツ語の授業は平日の午前に 3 時間×15 回ありました。事前に Web で受けたテストをもとにレベルに応じて 8 クラスに分かれました。各クラス 15 人ほどで、私は下から 3 番目のクラスだったのですが、日本人、中国人が多かったため過ごしやすい環境でした。しかし授業は基本的に英語でドイツ語を勉強するという感じなので、英語が上手なアメリカ人やカナダ人がクラスの中心となって積極的に発言していました。具体的な授業内容としては、名前や出身を聞き合う会話の練習や名詞や形容詞をカードを使って覚えることなどで、初歩的なことが多かったです。少し物足りなさを感じることもありましたが、単語を覚えるいい機会となりました。先生は様子がいつもと違ったら声をかけてくれたり、またテストはありましたが基本的に宿題はなく、あまり授業を苦痛と思うことはありませんでした。

Module

ドイツ語の授業の他に個々の興味に応じて選択できる Module は火・木曜日の午後に 1.5 時間×7 回ありました。ドイツ語の発音やドイツの政治について学ぶものなど様々なコースがあったのですが、私はコーラスを選択しました。毎回ウォーミングアップから始まり、喜びの歌や民謡など様々なジャンルの歌を歌いました。口を早く動かす歌が多く、授業の中だけではなかなか上達できないものもありましたが、授業終了後の閉会式の中で先生の伴奏のもとで他の学生の前で発表する場が設けられていたので、非常に達成感のある Module だったのではないかと思います。

Excursion

月・水・金曜日の午後には Excursion という校外学習のようなものが行われました。Excursion はバスで少し離れた都市に行くもの、ボン市内の歴史や文化を学ぶものの大きく 2 つに分かれていました。前者はドイツ語・英語の説明から事前に選ぶことができましたが後者はドイツ語だけでした。

まず、別の都市に行く Excursion ではケルン、ブリュール、アーヘン、デュッセルドルフを訪れました。メインは世界遺産となっている大聖堂やお城、教会などをガイドの説明を聞きながら見学することでした。私は英語を選択しました。説明が早口で聞き取りにくい時もあったのですが、そのおかげで少しリスニングに慣れたと思います。ケルン大聖堂のスケールの大きさやアーヘン大聖堂の中の美しい天井画、ブリュ

ールのアウグストゥスブルク城の豪華な装飾には大変感動し、心からこのコースに参加して良かったと思いました。Excursion は好きなだけ選択でき、またその料金も学費に含まれているので、積極的に参加した方がいいと思います。自由行動の時間もある程度設けられていたので、その土地の名物料理を食べたり、お土産を買うこともできました。

ボン市内ではボン博物館や旧西ドイツの首都だった頃の歴史を知る「民主主義への道」というものに行ったのですが、どれもドイツ語での説明で難しかったです。

生活全般

ボンの市内にいくつか寮があるようですが、私は大学からバスで 15 分ほどの場所にある個室の寮で約 1 ヶ月生活しました。寮の中は薄暗く少し寂しい感じはしましたが、トイレやシャワー、コンロ、冷蔵庫などが備え付けられていたため比較的快適に過ごせたかと思います。

食事については、食材は寮の近くにあるスーパーで調味料などから調達し、鍋や食器は寮の中の学生リーダーから借りて、自炊を頻繁にしていました。パンやヨーグルト、飲み物は切らさないように買って、その他ソーセージや卵を焼いて食べることが多かったです。お昼はメンザという学校と近くにある食堂で安くて美味しい料理を食べたり、また時間がないときにはパンなどを買っていました。

洗濯については、寮の地下にあるコインランドリーで専用のカードを使って行いました。時間帯によっては混んでいることもありましたが、空気が乾燥しているため部屋の中に干しているとすぐに乾いたためスムーズに行えたと思います。

自由時間

土・日曜日は学校がなかったため、私は事前に日本で購入したユーレイルパスを使ってオランダ、ベルギー、ルクセンブルクなど近隣の国に列車を使って日帰りで旅行に出かけました。ドイツとはまた違った雰囲気を感じることができ、非常に良かったです。他の学生も近隣の国に行ったり、ドイツ国内の有名な都市に出かけている様子でした。日曜日は飲食店以外はほとんど閉まっていたため家でのんびり過ごしたり、また天気のいい日にはライン川沿いを散歩したりしました。8 月のボンは夜の 9 時近くまで明るいため非常に便利でした。また大学のプログラムも日程的にそこまで厳しいものではなかったので、買い物に行ったり部屋で休んだり自由に使える時間が多く、助かりました。

まとめ

約 1 ヶ月ヨーロッパで生活して、英語やドイツ語を話したり聞いたりする力は少しは向上しましたが、まだまだ勉強不足だと感じることもたくさんありました。しかし異文化に触れる機会が多く、世界遺産や移民問題といった今までにあまり関心のなかったことについてももっと学びたいと思いました。ドイツ語やドイツ文化だけでなく様々な国から集まった人々と交流できるこのコースに参加して良かったです。

Internationaler Sommerkurs（Universitaet Bonn）

文教育学部　人文科学科
3 年　加納美優

授業

ドイツ語の授業は午前中に行われました。事前に行われたオンラインテストの結果をもとに振り分けられたクラスで授業を受けました。クラスは十数人の少人数制でした。私はお茶大で第二外国語としてドイツ語を履修していたので文法的な知識はあったのですが、実際にドイツ語を話したり、聞いたりすることに関してはさっぱりでした。先生は、ドイツ語で授業を始めたのですが、私を含めたクラスメートの理解に合わせて英語で行われることがほとんどでした。しかし、実際にドイツで生活する上で必要となるような事柄を中心に学習できたことや、周りからのドイツ語（あるいは英語）のインプットがあること、英語が世界での共通言語のような存在となってはいるものの、例えばスーパーでの買い物の際などはやはり表記はドイツ語なので、日本でドイツ語を学習するよりも、より身に付けることができたと思います。

課外活動（Module und Exkursion）

○Modul　最初は「ドイツと EU」というドイツ語での（恐らく）講義形式の科目を選択したのですが、初回に参加したところ、私には難易度が高すぎたためコーラスへと変更してもらいました。ドイツ語で歌を歌うのは、私にとってはドイツ語が日本語とは異なる音節言語であるためか、一通り歌えるようになるのも少し苦労しました。しかし、ベートーベンの生まれた町で、ベートーベンの喜びの歌を原詞のドイツ語で歌うことができたのは少し感動がありました。

○Exkursion　Exkursion では様々なところへ連れて行ってもらいました。ボン近郊へのボートツアーからのハイキングを経た後に試飲させていただいたワインは甘くておいしかったです。Exkursion ではアーヘンやケルンなど、他の都市へ観光に連れて行ってもらって町のガイドをドイツ語でしていただいたり、有名なケルン大聖堂の案内をしていただいたりもしました。他にも博物館を訪れたりなどしました。

ドイツでの生活

私は授業が行われる場所から徒歩で 30 分ほど、バスで 10 分ほどの場所にある寮に滞在しました。寮の部屋内は、机、ベッド、洗面器があり、シャワー室、トイレ、キッチンは同じフロアの人たちと共同で使う形式でした。キッチンにあるフライパンや鍋などの調理器具は使うことができましたが、普段自炊をしないということも

あり、私自身はあまりキッチンを使いませんでした。

歩いて 10 分ほどの場所に大きめのスーパーが何軒かあったので、生活に必要なものは大体そこで揃えることができました。しかし内容量が多いものもあったりしたため、何人かでシェアしないと使い切る、あるいは食べきることが難しそうなものもよく見かけました。日本のスーパーではレジ袋は不要であると伝える必要がありますが、ドイツのスーパーではエコバッグなどを持っていることが前提とされており、環境への取り組みに関しては日本よりも身近であると感じました。

ドイツの気候に関してですが、私が行った年のボンは雨が多く、寒い日が多かったです。8 月でも日本の最低気温がボンでの最高気温であることも多く、昼間は過ごしやすかったです。しかし一日の中での気温の差が激しかったり、さらに天気の移り変わりも激しかったりしたので戸惑うことが多かったです。

観光

授業の無い週末には、ボンを散策してボン大学付属の植物園（写真中央）へ行ったり、ドイツの交通網を駆使してボンから少し足を伸ばしてハイデルベルク（Heidelberg、写真左）やマンハイム（Mannheim）トリーア（Trier)、ドイツ 3 大美城に数えられるエルツ城（Burg Eltz、写真右）などへ行ったりしました。エルツ城へは最寄りの駅から 5km ほどの森の中にあり、到達するまでに徒歩で 1 時間ほどかかりましたが、お城が見えた瞬間の感動は忘れられません。

全体を通して、私自身の語学力はあまり向上しなかったと思いますが、初めての海外生活でもあったので、実際に母語以外の言語を使って、生まれた環境も育った背景も異なる人と話す、という経験ができたことが一番の収穫かと思います。また、日本にいる時はあまり遠出をしない方だと思うのですが、渡航中はせっかくドイツに来たのだから、との思いであちこち観光して回ったため、行動力と、目的地へたどり着くための情報収集力や計画力は培われたのではないかと思います。余談ですが、電車に乗った際に小さな女の子と遊んで（？）いて、電車を降りる際にその子の父親と「Tschuess」と言葉を交わしたことが記憶に残っています。それぞれの文化にそれぞれのコミュニケーションの取り方があると思いますが、積極的に色々な人と言葉にしてコミュニケーションを取っていくことも楽しいなと思いました。

ボン大学でのサマーコースについて

文教育学部　言語文化学科
3年　町田実梨

授業内容

月曜日から金曜日まで、午前中に 90 分の授業が毎日2コマと、火曜日と木曜日の午後は選択式のモジュールが105分ありました。

午前中の授業はドイツ語のレベル別に分かれていて、私はA1/A2のクラスだったのですが、文法的には既知の事項をドイツ語で学ぶといった感じでした。毎日簡単な宿題がでたことに加え、最後の週には1ページのドイツ語作文の課題がありました。スピーキングの面では、日常生活を意識したシチュエーション、たとえばレストランや買い物、ちょっとした世間話などを想定した会話練習をしました。またクラスメイトたちの国籍も様々で、自国の文化について説明を求められる場面などもあり、話す機会も非常に多く設けられていて、スピーキング能力の向上につながったのではないかと思います。もちろんクラスメイトたちの国の文化や慣習についても話を聞くことができ、それも大変興味深かったです。

火曜日と木曜日の午後のモジュールは、コーラスを選択しました。「喜びの歌」といった有名どころはもちろんのこと、ドイツの童謡や、カーニバルで歌われるノルトラインの方言の歌など、多様な歌に触れることができて面白かったです。歌を通して、音節のとらえ方や、詩などで見られる母音の省略について改めて考える機会にもなりました。最終日のセレモニーに向けて大勢で合唱に取り組むのは、達成感もあり楽しかったです。

課外活動

月曜日、水曜日、金曜日の午後は、遠足という形で様々な機関や都市を訪れ、ドイツ語または英語でガイドをしていただきました。ボンには EU 関連の機関がいくつか置かれています。また連邦会計検査院では職員の方の説明を聞くこともできました。

ボンにほど近いケーニヒスヴィンターでは『ニーベルンゲンの歌』に出てくるジークフリートが竜を殺したという山に登り、近くのワイナリーで作ったというリースリングのワインの試飲をさせてもらいました。近郊都市への遠足では、ケルン大聖堂やアウグストゥスブルク城といった世界遺産を、ドイツ語または英語のガイド付きで見学しました。教会や城などの巨大な建築物の来歴や地域の歴史など、個人で訪れたのではなかなか知る機会のない情報に触れることができて非常によかったです。

生活全般

ボンは比較的小さな町で、治安もいいと感じました。夏なので毎晩 21 時くらいまで明るく、夜出歩くにもあまり困りません。大きなスーパーマーケットは平日は 24 時まで、土曜日も 22 時まで開いていますが、ドイツではスーパーマーケットは日曜日には開かないので、そこだけは注意が必要でした。また、ごみの分別が細かく決まっていたり、ペットボトルや瓶のリサイクルをかなり厳しく行っていて、環境大国としての一端が垣間見えました。

移動は基本的にはバスを使いましたが、U Bahn と呼ばれる地下鉄も便利そうでした。緑が多いので天気が良ければ歩いても気持ちがいいですが、自転車が非常に多く走っていて、自転車専用の道もあるので気を付けなければいけません。

ヨーロッパ全般に言えることですが、非常に乾燥しているので、気温が少し高くても体感はそれほどではありません。雨が降ったりするとかなり寒く、羽織るものが必要な日も多かったです。ただし乾燥しているおかげで洗濯物はすぐに乾きました。

私があてがわれた寮は、自室にユニットバスと小さなキッチン、冷蔵庫が付いていてかなり快適に過ごせたのですが、バス・トイレ、キッチンが共用の寮もあるようです。

気候もよく街も快適で、非常に過ごしやすいところでした。

帰国報告書

人間文化創成科学研究科　人間発達科学専攻
M1　張輝

私はドイツのボン大学のサマープログラムに参加しました。これから、授業内容、課外活動及び生活全般と三つの部分から紹介させてもらいたいと思います。

（一）授業内容

授業内容は二つの部分から構成されています。平日の午前中のドイツ語授業と火曜日、木曜日の午後の Module です。

① ドイツ語授業

ドイツ語授業は朝 9 時からお昼の 12 時 30 分までです。私はドイツに行く前に、あまりドイツ語を勉強したことがないので、初心者向けのクラスに入りました。私たちのクラスの先生はとても優しい方で、私たちがよく授業を理解するため、良く英語や体の動作や絵でドイツ語を解釈しました。そして、私たちがドイツ語の文法と単語を覚えるようになるために、いろいろな趣のあるゲームも作り出しました（右の写真は先生が作ったゲームの道具です。）。すると、放課後でたくさんの時間をかけなくても、クラスメートと楽しくゲームを遊びながら、自然に文法と単語を覚えるようになりました。

クラスメートは日本、中国、ボリビア、ブラジル、スペイン、シンガポールなどいろいろな国から来ました。授業中、クラスのみんなと一緒にゲームを遊んだり、先生からの質問を積極的に答えたりして、とても楽しかったです。

② Module

火曜日と水曜日の午後の Module が 8 つの科目があって、サマープログラムの参加者はその中から一つを選んで参加します。私は最初ドイツの歌を歌うクラスを選びました。ところが、ドイツ語授業で仲良くなったボリビア出身の友達から彼女の選んだ国連機関についての授業のことをいろいろ聞いて、とても興味を持つようになり、ボン大学の先生と連絡を取れて、国連機関を紹介するクラスに転入しました。私の参加した Module は二つの授業内容からなっています。一つの授業内容はいくつかのグループに分けて、グループそれぞれ一つの国連機関を選んで、グループ全員で一回の発表します。そのあと、先生方からの補足説明もあります。二つ目の内容はバスに乗って、ボンの近くの国連機関も見学することです。この Module を通じて、国連機関への認識が深まるようになりました。特に、いろいろな国からのクラスメートと一緒にチームワークができて、とても貴重な経験をしました。

（二）課外活動

課外活動の参加は自由であり、参加したいコースだけに参加してもいいです。私はすべての課外活動に参加したので、月曜日から金曜日まで、授業以外の時間はほとんど課外活動のスケジュールとなっています。課外活動の内容はとても豊富で、興味深いです。ワインの試飲や宮殿及び博物館見学や山登りなどいろいろあります。

数多くの課外活動の中では、一番楽しかったのはライン河クルーズです。クルーズ客船で、風に吹かれて、ライン川両岸の景色を楽しみながら、サマープログラムで知り合った友達と話し合って、とても楽しかったです。（左の写真はサマープログラムで知り合った友達とライン河クルーズの後、登った山の頂上で撮った写真です。私たちの後ろの川はライン川です。）

一番感動したのはケルン大聖堂です。参加者にケルン大聖堂を紹介してくださった先生のお話によると、ケルン大聖堂がすべてが完成したのは建設開始から600年以上も経過したそうで、とても歴史的な建築です。そして、ケルン大聖堂の建築の表と中身にある浮き彫りもガラスも非常に美しいです。（左の写真は友達とケルン大聖堂の前で撮ったのです。）

（三）生活全般

①住むこと

サマープログラムの参加者はほとんど寮で生活していました。寮から大学までバスでおよそ 15 分かかります。私の住んでいた寮はキッチンもトイレも付きで、しかもとても清潔でとても快適に過ごすことができました。サマープログラムで仲良くなった友達たちも同じ寮に住んでいたので、何人か集まって、お菓子や飲み物を買って、私か友達の部屋でよくパーティーをしました。みんなとおしゃべりしたり、おいしいお菓子を食べたりして、とても楽しい時間を過ごしました。（左の写真は私の寮の一部の様子です。）

②買い物すること

寮の近くにはスーパーマーケットがあります。食べ物や日常用品などをよく寮の近くのスーパーマーケットで買いました。大学はボンの中心地にあるので、大学の近くにも商店街があって、土曜日と日曜日には、よくバスに乗って商店街へ買い物に行きました。

③食べること

朝ごはんと晩御飯はサマープログラムの友達と一緒にお店で食べたり、または食材をスーパーマーケットで買って、自分の部屋で作ったりしました。昼ご飯はボン大学の食堂で食べることができます。食堂の料理はいろいろな種類があって、とても美味しかったです。午前中の授業が終わって、よくボン大学の食堂で昼ご飯を食べます。

ドイツのボンでの一ヶ月はあっという間に過ごしました。この一ヶ月で、他の参加者と一緒に授業をしたり、遊んだり、笑ったり、とても楽しかったです。ボン大学のサマープログラムに参加することを通じて、ドイツへの理解が深まってきて、いろいろな国からの友達もできて、ドイツ語と英語も参加する前より良くなったと感じました。ボン大学サマープログラムに参加できて本当に良かったと思います。

이화여자대학교

EWHA WOMANS UNIVERSITY

梨花女子大学での経験を通して

文教育学部　人文科学科
２年　淺尾理沙子

今回私は８月７日から２３日まで韓国・ソウルにある梨花女子大学に短期留学に行ってきました。

授業内容

授業は平日の午前９時から午前１１時４５分まで行われました。クラスは韓国語のレベルによって細かく分かれるので、自分のレベルにあった授業を受けることができます。また韓国語のクラスは事前にネット上で行う文法とリーディングのテスト、初日に梨花女子大学で行われるスピーキングのテストで決められます。

私は中級の下のクラスだったのですが、授業は指定された教科書に沿って文法中心にリスニング、リーディング、スピーキングまで幅広く行われました。授業はすべて韓国語で行われるので特にリスニングは鍛えられるのではないかと思います。授業で出てきた文法は初級で習う簡単なものだったので、私はすでにやったものが多かったのですが、改めて韓国語で文法の説明を受けながら復習ができたのでよかったです。先生方はとても丁寧に教えてくださり、また１クラス１５人と少人数なので質問もしやすい環境でした。何よりも韓国語をやりたいという意欲がある学生が集まっていたのでクラスの雰囲気はとてもよかったです。

課外活動

授業がある日はその午後にほぼ必ず課外活動が行われました。映画館に行って韓国映画を見たり、韓国の精進料理を作ったり、K-POP ダンスを習ったりと様々な課外活動を行いましたが、中でも記憶に残っているのは韓国の中部に位置する安東という市に一泊二日でフィールドトリップに行ったことです。安東ではまずラフティングをしました。流れが緩やかな川をボートで下って行ったのですが、現地の指導員のお兄さんたちが非常に面白い方ばかりで、ただ川を下るのではなく、水に落とされたり、ボートの上で上下運動をしてボート自体を大きく動かしたりと非常に楽しかったです。今回のフィールドトリップではハフェ村という場所にある韓国の伝統家屋に宿泊しました。韓国の時代劇でみるような伝統家屋に泊まることができて貴重な経験になったと思います。また安東では様々な韓国料理を食べることもできました。中でも安東チムタクという鶏肉の甘辛煮は非

常に美味しかったです。安東はソウルに比べると非常に自然が豊かな場所です。韓国に留学や旅行に行ってもなかなかこのような場所は訪れることはないと思うので、貴重な体験でした。

また上述した通り、安東でのフィールドトリップ以外にも様々な課外活動を行わせていただきました。そのどれもがソウルに旅行に行っただけでは体験できないものであり、また韓国の文化をより知ることができるものだったので韓国の文化を知りたという方には本プログラムは非常にお勧めできるものだと思います。

生活全般

今回のプログラムでは梨花女子大学内にある寮に宿泊しました。部屋にはユニットバスも付いており、非常に生活しやすかったです。また共同のキッチンなどもあるので簡単な調理も可能でした。大学内には複数のコンビニやフードコート、パン屋、また大学の周りは非常に栄えていて飲食店が多くあるため食べ物に困ることはありませんでした。毎回外食をしているとお金もかかってしまうので、コンビニやスーパーでカップ麺やパンを買って寮の部屋で食べるといったこともありました。ただやはり韓国料理は辛いものが多く、少量では大丈夫でもある程度の量を食べるとお腹を壊しやすいと思います。実際、私の周りにもお腹を壊している人が複数いました。私は胃腸薬を持って行っていたので、辛いものを食べた時や少しお腹の調子が悪いと感じた時にはこまめに服用するようにしていました。

平日は午前中に韓国語の授業があり、午後は韓国に関する英語での講義、課外活動があったので時間がありませんでしたが、休日は時間が多くあったので様々な場所に観光に行くこともできました。そこで便利だと感じたのはソウルの地下鉄です。ソウルでは地下鉄に乗ればほぼどの場所にも行くことが可能です。また東京の電車と異なり、全く複雑ではないので気軽に利用することができますし、運賃もどこまで乗っても一律 1250 ウォンなので料金の面でも非常に利用しやすいと思います。

韓国では公共交通機関の料金や洋服の値段は日本に比べて安いですが、食費や生活用品に関しては日本と変わらない印象がありました。そのためソウルでの生活は日本と大きく異なることはないので非常に生活しやすいものであったと思います。また食べ物も美味しいものが多く、毎回の食事が非常に楽しみでした。

まとめ

今回梨花女子大学でのプログラムに参加してみて、感じたのはまだまだ韓国語の能力が足りないということです。初級の文法はある程度身につけて行ったつもりでしたが、それを自分の言葉で話そうとするとなかなかすぐに口から出てきませんでしたし、何よりも語彙が足りないことを実感しました。そのためこれからも梨花女子大学で学んだことを生かしながら韓国語の学習を頑張っていきたいと思いました。

梨花女子大でのＳＳＰに参加して

生活科学部　人間・環境科学科
３年　金田深桜子

動機

私は、かねてより「近くて遠い」異なる文化圏で暮らし、現地生活を体感したいという思いがあった。その条件の中で、どうせ留学に行くなら、未開拓の言語圏で(英語の勉強にもなりそうだし一石二鳥)、日本で話題性・メディア露出が多く身近であり、以後も気軽に足を運べそうな国として韓国を、そして文化研修が充実している梨花女子大学を選んだ。

授業内容

韓国語は全くの初心者であり「かろうじてハングルは読める」ぐらいのレベルで渡韓してしまったが、周りを見渡せばある程度勉強が進んでいる人が殆どであったように感じる。しかし、授業自体は習熟度別のクラスに分かれて行われるし、進行は英語なので特に問題はなかった。語学研修は平日の午前中に行われ、私のクラスは、独学が難しい発音から基本的な文を作るまでを学習した。あくまで私にとっては、語学研修はおまけであり文化研修がメインだったので、韓国文化も体感でき韓国語の授業まで受けられる、このスケジュールはかなり魅力的であった。

課外活動

午前中の授業が終わった後、ほぼ毎日のように文化体験プログラムが組み込まれていた。講義モノ(北朝鮮関連、伝統音楽など)に加え、博物館研修、映画、韓国料理教室(右の写真)、芸術の鑑賞、K-POP、安東市での１泊２日フィールドトリップなど盛り沢山で、期待通り充実した内容だった。正直、文化研修だけでも受ける価値は十分にあると思う。

課外活動は基本的には「連れて行ってくれる」だけなので、私はプログラムが終わり次第、毎日のように予定を立てて遊びに出かけていた。工夫してプライベートと要領よく両立すれば、かなり留学生活を充実させられるのではないかと思う。

生活全般

韓国は、留学先として、ちょっとしたカルチャーショックを体感したい人にはもってこいの国だと考える。平たく言えば、日本での一般常識は全く通用しないものだと思った方がよい。いまや気軽に飛べる韓国であるが、旅行でオモテ面だけなぞるのとは異なり、少し長く滞在してみればその両面性が面白いほど見えた(小さな例を挙げ出せば、このスペースには到底書き切れない)。

ただ、実際に生活を体感してみて共通して行き着いたこと、それは紛れもなく「日本は良い国」ということだった。異国の文化を学んだ結果として、最終的にここに帰着するとは想定もしなかったが、自分の国の素晴らしさは、外に出ない限りは改めて認識できないものなのかもしれない。

研修参加者からのアドバイス（梨花女子大学）

1. 出発前に、気を付けたほうがいいこと
   - 事前に派遣先の情報を調べておく。
   - 空港から大学までのピックアップを頼まない場合は、空港からの経路を必ず調べておくこと。私たちは空港からのリムジンバスに乗って大学まで行きました。リムジンバスの利用は簡単なので問題ないが、大学内が広いため、学内で迷ってしまった。寮の前まで送ってくれるピックアップが無難だったかもしれません。

2. 研修先の授業
   - 韓国語の授業は少人数で手厚く受けられる。
   - 日本でインターネット上で受ける web テストと韓国で受けるスピーキングまたはライティングのテストでクラスが決まる。中級、上級のクラスは全て韓国語で進むが、先生がとても分かりやすく教えてくださるので問題なし。辞書などがあると良いかもしれません。

3. 寮
   - 寮だったが、異国のルームメイトとコミュニケーションをとるのが必要。
   - 寮は部屋にユニットバス、机、クローゼット、ベッド、冷蔵庫など必要なものが揃っているので安心。また各階にあるキッチンにはウォーターサーバーなどもある。トイレにはトイレットペーパーがなかったので現地で調達した。寮は非常に過ごしやすかったです。

4. 食事について
   - 困ることはなかった。
   - 寮では何も出ないので、3 食全て自分で用意する必要あり。学内にはコンビニやパン屋などがあり、学校の周りにも飲食店が多くあるので、食事面で心配することは無い。ただ食べ物は辛いので胃腸薬などがあると良いかも。

5. 現地の学生・地域の方々との交流について

- 英語が話せれば韓国語があまり話せなくてもコミュニケーションができる。
- 必ずバディが付いてくれるので、韓国での生活で分からないことがあればすぐに聞くことができる。
- 学内の先生や学生以外には特別な交流の機会はなかった。

6. お金について
- 韓国はカード社会が発達しているため、クレジットカードが重宝した。
- 物価は日本とほとんど変わらない。
- 両替は日本では最低限(韓国での初日の交通費＋予備のお金)しかしない方が良い。(レートが悪いので)現地に着いたら明洞の両替所まで行き、そこで両替をするとほとんど損せず、むしろプラスで両替可能。
- 大学のそばにも両替所があるが、明洞の方がレートがよい。

7. その他
- 留学前よりも韓国という国に親近感を持つようになり、また自分の人間性の向上がはかれたと思う。
- 地下鉄が非常に便利なので、韓国に行ったら交通カードを買うことをオススメする。
- 韓国の車は非常に強い運転が荒いので、気をつけた方が良い。(韓国旅行で車に轢かれている友人がいます。)
- 日本と近い部分も多く、観光地は日本語が通じることも多いので、韓国語ができない人でも安心して留学に行ける。

UNIVERSIDAD
DE BURGOS

ブルゴス大学短期語学研修

文教育学部　人文科学科
２年　木村真央

１.クラスの概要（長期留学生向けスペイン語補習授業を受講）

初回の実力テスト・個人の学習意欲を参考に三つのレベルにクラス分けされた。私が受講したのは A1 のスペイン語入門のようなクラスであったが、授業は原則英語禁止、ブルゴス大学の教授がネイティブのスペイン語でスペイン語を教わった。私自身、挨拶と感謝の言葉しかスペイン語で確実にわかるものがない、英語も１年ぶりに話すという状態で臨み、ご想像の通り、奇跡も起きず、あえなく初日からネイティブスペイン語の洗礼を受けた。しかし、想像力や経験を組み合わせて学ぶことが自身の学習スタイルにあっていたようで、母語の講義を聴きながら机に向かって勉強するよりも楽に身につけられたような気がする。ブルゴスでは観光地付近のお店であっても（ローカルなお店ならなおさら）英語はほぼ通じない（聞いてもらえない）ので、「スペイン語を身につけなきゃ、嗅覚をくすぐるあの香ばしいクロワッサンに有り付けない」というプレッシャーにもかられていたのかもしれない。また、理解している人がつまずいている人をフォローしようという雰囲気だった。授業時間は朝１０時から１４時までで、間に１５分の休憩を挟んでいた。みんな長期できていたため、休み時間の合間に物件や母国の食材が売っているスーパーの情報交換をしていたり、不安なことを相談しあったりしていたので、全体的に国籍関係なく仲良くできる雰囲気だった。

２.ブルゴスでの生活

一言で紹介すると、マドリードからバスで２時間、世界遺産ブルゴス大聖堂の鐘が鳴り響く街がブルゴスである。スペイン内陸に位置するため昼夜の寒暖差が激しく、9 月初旬にもかかわらず、早朝に吐く息は白く、空気もひんやりとしていた。食事は基本的にホストマザーが朝食・昼食（１４時）・夕食（２１時前後）に用意してくれたので外食は少なかった。bar と呼ばれるお店が日本のコンビニと同じぐらい行く先々にあり、朝から晩まで食事をお手頃な値段で提供していた。朝は一人で入れるが、昼と夜は一人で食事をするのに抵抗がある雰囲気だった。（一人でお店に入るのに抵抗はあるけど、何か食べたい時は、パン屋さんやアイスクリーム屋さんに行くと美味しいものが食べられておすすめ。）ブルゴスは比較的治安が良く（実際私はスリにも事故にも遭わなかった）、２０時でもかなり明るいので、一人で観光しやすかった。Mayor plaza では生活に必要なものが売っていたり、大聖堂から徒歩１０分圏内に大きめのスーパーがあったりと、買い物には困らなかった。総じて過ごしやすい街ではあるが、日本人は本当に少数なので、行動が目立ちがちなので、常に誰かから見られていることを意識しなければいけないと感じた。見知らぬ人からカフェに誘われたり、レジでお釣りをごまかされたりということがあったので、常に危機意識は持っておくべきだと改めて感じた。洗濯や入浴に関しては、日本と違って、

乾燥した気候かつ、ミネラルを多く含んだ水質（でも水道の水を二週間２ℓずつ飲んでも問題はなかった）のために、毎日必ず行わなくても不快に感じることはなかった。

３.この二週間で得たもの

出発前は、初めて見るヨーロッパの文化を実際に目で見て学んだり、全くコミュニケーションできるレベルに達していないスペイン語のスキルアップをしたりと行った目標を持っていた。もちろん、これらの目標もある程度満足できる程度の達成はされたのだが、これに加えて、「外国人の気持ち」を考えるきっかけになった。近年特に、日本にくる外国人旅行客が増加し、街中でも良く見かけるが、時々、駅や街で何か戸惑っているような人を見かける。基本的に、旅行客からしたら見知らぬ旅行先の現地人から話しかけられたら恐怖心を抱くのではないかと思い、自ら声をかけることは遠慮してきた。しかし、今回の留学で最も痛感したのは、たとえ現地語しか話せないとしても、困った時に手を差し伸べてもらえることは実際に解決に至らなくても、安心感や、その国に対してかなりの好感を持つということであった。外国人であるというと、常に頭の片隅で「文化が違うから考えることも感じることも私たちとは異なる」と思いがちだが、全くそういったことはないと言える。同じような生活をし、同じようなものを毎日求めて、同じような行動を起こしている。こうしたことを踏まえて、文化の違いとは何か、その文化の違いに対してどう反応していくのか今後考えていきたい。

編集後記

グローバル化が進む中、教育機関として学生に世界と競争のできる様々な能力を身につけてもらう必要があると考えている。学生の皆さんには、海外短期研修を通して、言語能力だけでなく、異文化の人々とのコミュニケーション能力を養い、想定外のトラブルに対応できる能力を身につけてほしいと思っている。今回の短期研修に参加された皆さんは本報告書に書ききれないほどの経験をしてきていると思うが、その中でも一部を記録として、共有してくれたことを感謝している。次の世代の学生の皆さんの派遣前準備では非常に活用のできる情報であることは言うまでもなく、留学をしようと思っている学生の皆さんの後押しとなる判断材料としても活用していただきたい。

私がアソシエイトフェローとして、国際教育センターに着任したとき、短期研修の意義に疑問を感じていた時期もあった。しかし、帰国してきた学生の研修を担当しているときに彼らの自信とやる気に満ち溢れた表情を見ると、海外での滞在経験は短くても得られることがたくさんあるという事に気付かされた。短期研修で味わった良い経験も苦い経験も全てが今後の人生において、役に立つ経験となり、学生の人間力を養う良い働きをしていると考えている。

留学に行くか迷っている学生の皆さんには、是非、一度国際教育センターに足を運んでもらいたい。様々な可能性を探るお手伝いをしていきたいと考えている。また、今回の研修から始まったスペイン語短期研修のように英語圏だけでなく、他言語圏への派遣も積極的に行い、様々な背景を持つ人々と交流する機会をこれからも学生の皆さんに提供していきたいと考えている。

国際教育センター　アソシエイトフェロー
松田デレク